

中長期高校再編整備計画

新しい時代にふさわしい
高校教育のあるべき姿を求めて

新潟県教育委員会

はじめに

今日、高等学校等進学率が98%を超えて高等学校もその役割を大きく変え、また社会や時代の急激な変化に伴い、生徒の将来の進路希望も多様化が進んでいることから、これからの高等学校がどうあるべきかが問われております。

このため、新潟県教育委員会では、本年3月に、これからの本県の高等学校の再編整備計画骨子(案)を公表して、この骨子(案)に関し、教育関係者や児童生徒の保護者をはじめ広く県民の皆様方を対象にアンケート調査の実施や意見等をお聴きしたところですが、骨子(案)の基本的理念や考え方、再編整備の方向等につきましては大方の賛同を得たものと考え、ここに骨子(案)に若干の修正を加え「中長期高校再編整備計画」として公表することといたしました。

本計画は、中長期的な視点に立った今後の本県県立高等学校の在り方を示すとともに、それを実現するための県立高校再編整備計画とその具体的計画を明らかにしたものであります。

本計画は、次の5章で構成されております。

第1章では、本県の高等学校の現状と課題、第2章では、計画の期間、理念等、第3章では、計画の基本方針及び枠組み、第4章では、具体計画を示すとともに、平成15年～平成25年までの年次計画案を示し、第5章では、平成15年度～平成17年度までの3年間の募集学級計画案を提示しています。

なお、今後、本計画の第5章については、中学校卒業生徒数の増減や、生徒の進路希望等を勘案して、平成16年度～平成18年度の3カ年の募集学級計画案としてできる限り早急に公表し、広く県民の理解を得ながら進めていきたいと考えております。平成16年度の募集学級計画案については、平成15年9月に発表したいと考えています。以後毎年同様の手順に従って、第5章部分についてのみ、次年度以降の直近の3カ年分の募集学級計画案として公表していくことにしております。

今後、県教育委員会としては、国の教育改革の動向を踏まえながら、生徒が生き生きと学べる魅力ある学校づくりを目指して、計画の実現に向けて努力を重ねてまいりたいと考えておりますので、県民の皆様の一層のご理解、ご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成14年12月16日

新潟県教育委員会教育長 板屋越 麟一

目 次

第 1 章 高等学校の現状と課題

1 現状	1
(1) 中学生の多様化	
(2) 高校生の多様化	
(3) 高校教育に対するニーズの変化	
(4) 中学校卒業生徒数の減少	
2 課題	5

第 2 章 計画の期間、理念等

1 計画の期間	6
2 計画の理念	6
3 計画策定の前提条件	7

第 3 章 計画の基本方針及び枠組み

1 計画の基本方針	8
2 計画の枠組み	9

第 4 章 具体計画

1 学校・学科等の在り方	10
(1) 普通科	
(2) その他の専門学科（理数科、音楽科、体育科等の特色ある学科）	
(3) 総合学科	
(4) 専門学科	
農業科	
工業科	
商業科	
水産科	
家庭科	
(5) 単位制高校	
(6) 中高一貫教育校	
(7) 分校	
(8) 夜間定時制高校	
(9) 通信制高校	

2	年次計画案（平成15年～平成25年）	21
	(1) 新発田・村上学区	
	(2) 新津・五泉学区	
	(3) 新潟学区	
	(4) 三条・西蒲学区	
	(5) 長岡・柏崎学区	
	(6) 魚沼学区	
	(7) 上越学区	
	(8) 佐渡学区	
3	学校・学科等の配置計画案	30
	(1) 学級規模別学校数の推移（全日制独立校の数）	
	(2) 普通科系学科	
	普通科	
	その他の専門学科	
	総合学科	
	中高一貫教育校	
	(3) 専門学科（併置学科を含む）	
	農業科	
	工業科	
	商業科	
	(4) 単位制高校	
	(5) 分校	
	(6) 夜間定時制高校	

第5章 今後の募集学級計画

1	今後の募集学級計画策定の進め方	34
	(1) 平成15年度の募集学級計画	
	(2) 平成16年度以降の募集学級計画	
2	募集学級計画案（平成15年度～平成17年度）	35
	(1) 新発田・村上学区	
	(2) 新津・五泉学区	
	(3) 新潟学区	
	(4) 三条・西蒲学区	
	(5) 長岡・柏崎学区	
	(6) 魚沼学区	
	(7) 上越学区	
	(8) 佐渡学区	

資料編	44
-----	----

第1章 高等学校の現状と課題

1 現状

今日、高等学校は中学校卒業生徒のほとんどが進学する国民的教育機関へとその性格を変えている。また、情報化・国際化などの社会や時代の急速な変化に伴い、生徒の進路希望等の多様化が一層進んできており、高等学校の在り方が今改めて問われている。

さらに、少子化の進行により中学校卒業生徒数の長期にわたる減少が今後も続くことが必至であり、これらに伴う、学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、学校・学科の改編等、適切かつ早急な対応が求められている。

(1) 中学生の多様化

本県の高等学校等進学率は、平成14年度には98.3%に達し、入学する生徒の生活歴(注1)を含め、能力・適性、興味・関心、進路希望等が多様化している。

また、中学校を卒業する時点では、将来の進路の方向が定まっていない生徒や自己の特性、学習歴等に応じた学び方を希望する生徒が年々増加してきている。

さらに、中学生の進路希望の多様化や大学等進学率の上昇等に伴い普通科系学科(注2)を希望する生徒が年々増加する一方で、専門学科(注3)の希望比率が大きく減少してきており、このような状況に対応するため、普通科系学科と専門学科との募集定員比率を平成14年度には普通科系学科74.9%、専門学科25.1%としたが、依然として生徒の進路希望との差があるため希望する学科へ進学できない状況が生じている。

(注1)生活歴 : 交友関係、日常習慣、長期欠席、不登校経験、いじめの被害経験、非行等の問題行動等

(注2)普通科系学科 : 普通科、総合学科、その他の専門学科(理数科、英語科、音楽科等)

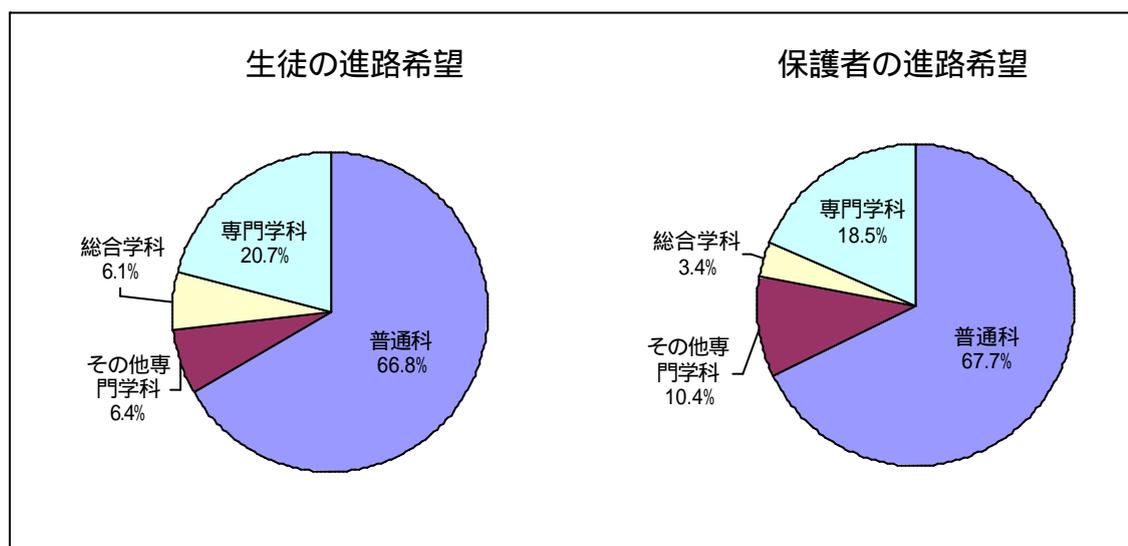
(注3)専門学科 : 農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科

<参考> 全日制進学希望者に占める希望学科の割合

「中学校卒業後の進路に関する調査」

(平成14年2月、2年生全員と保護者の25%を対象に実施)

普通科、総合学科、その他の専門学科(理数科、英語科、音楽科、体育科等)を併せた普通科系学科の希望比率は、生徒が79.3%、保護者が81.5%である。



(2) 高校生の多様化

近年、学業や部活動、生徒会活動など学校の諸活動に意義を見出し、積極的に学校生活を送っている生徒が多い一方で、明確な目的意識を持つことができずに、達成感や満足感も十分得られないまま卒業していく生徒も少なくない。さらに、入学後、学校不適應や進路変更等を理由に、長期欠席や中途退学する生徒、また、中途退学した後、改めて異なった課程の高校へ入学してくる生徒も増加してきている。

また、不況の影響による求人状況の悪化に加え、生徒の勤労観や就労意識等の変化から、高校卒業後フリーターになる生徒が増加している。

(3) 高校教育に対するニーズの変化

ア 高校生の進路希望の変化

社会一般の高学歴化の中で、高校卒業後直ちに就職する生徒は、10年前の平成5年3月では36.7%であったものの、平成14年3月には18.9%と、大幅に減少し、将来大学などでさらに勉強したいと希望する生徒が年々増加してきている。

因みに、専門学科においても、大学等への進学者は平成5年度の9.6%から平成14年度の19.9%と増加傾向にある。

イ 社会及び産業界のニーズの変化

卒業後、実社会に巣立つ高校生に対して、社会及び産業界からは、知識・技術の高度化、多様化に対応できる即戦力となる人材が求められているが、現行の教育内容では十分な対応が出来ない実情がある。

また、専門高校においては、将来のスペシャリストとなるために必要とされる基礎的・基本的な教育に重点を置く必要性が高まっている。さらに、大学などへの進学希望者に対して、多様な教育課程の編成やコース制の導入などにより、専門的知識・技術を発展させるため、継続教育(注)にも配慮する必要がある。

(注) 継続教育

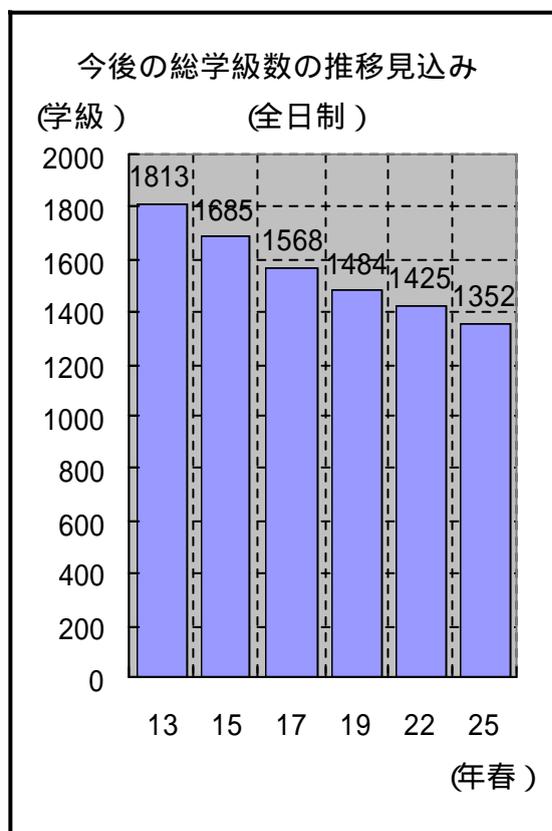
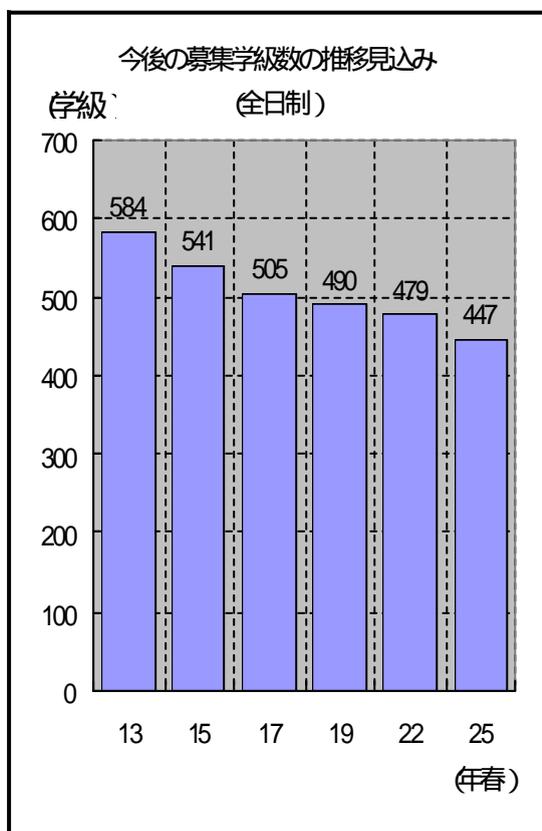
社会の急激な変化や技術の高度化、資格取得の奨励などに対応するため、生涯学習の視点を踏まえ、高等学校では基礎・基本の知識・技術を習得し、その上で卒業後は、大学や短大、専門学校等の教育機関においてさらに高度な知識・技術を習得し専門能力を向上させていくという、高等学校と大学や短大等を接続した教育の在り方。

(4) 中学校卒業生徒数の減少

中学校卒業生徒数は、少子化の進行により今後も急激に減少し、本計画最終年度の平成25年春には、平成13年春に比べて、およそ6,300人（40人学級に換算して約160学級相当）減少して、22,800人程度となる見込みである。

今後、高校等進学率がさらに上昇して約99%程度になると見込んでいるが、平成25年春には、現在と比べ、全県で、1年生では140学級程度、全学年合わせて440学級程度の学級が過剰になると見込まれる。（平成13年度の1年生の学級数は580学級程度、総学級数は約1,800学級）

これを、学校数等を現状のままとして募集学級数を減ずれば、多くの学校が小規模化し、その結果、コース等の設定、多様な講座の開講、個性に応じた選択授業の実施、教科・科目に応じた教員配置等や、部活動、学校行事など多様な教育活動の実施等にも支障を来すなど、学校の教育力や活力の低下、さらに、小集団のため人間関係の固定化や、社会性、協調性等が身につくにくいなどの弊害も生ずることが懸念されている。



2 課題

生徒の多様化や中学校卒業生徒数の大幅な減少、社会や時代の高校教育に対するニーズの変化等を踏まえ、生徒一人一人の自己実現を図るため、以下の課題の解決を可能とする、魅力的で、特色のある学校づくりを推進していく必要がある。

- (1) 自己の特性・学習歴等に応じた学び方を希望する生徒や将来の進路が定まっていない生徒に対応するため、様々なニーズに見合った学校・学科等の適正な配置が求められていること。
- (2) 一人一人の生徒の個性、能力を尊重した教育を推進するため、選択幅の広い教育課程の編成や中高一貫教育の推進など学校制度の複線化や編入学制度の弾力化等、やり直しが可能な学校制度を実現していく必要があること。
- (3) 専門学科も含め、大学等への進学希望者の増加に対応するため、教育課程の見直しや進路指導の充実等を図り、生徒の進路希望実現を一層支援していく必要があること。
- (4) 卒業後、実社会に巣立つ生徒に対しては、知識の高度化や様々な技術革新の進展等に対応するため、基礎・基本となる知識、技術・技能を確実に身につけさせる教育課程の検討や施設設備の充実等が必要であること。
- (5) 中学校卒業生徒数の減少に伴い学校の小規模化が進むことから、選択授業の実施、生徒会活動、部活動等に生ずる支障を解消して学校の教育力や活力を高めていくため、全県的視野に立って、学校の統廃合を含め学校規模を適正なものにしていく必要があること。

第2章 計画の期間、理念等

1 計画の期間

計画の期間は、平成15年度を初年度として平成25年度までとし、直近の3年間の計画を中期計画、それ以後を長期計画とする。

2 計画の理念

高校再編整備に当たっては、生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな人間性やたくましさを育む教育を推進し、社会の有為な形成者として必要な資質や能力を培うことを目的に、以下の理念に基づき、これからの高校の再編整備の具体的な内容を盛り込んだ中長期高校再編整備計画を策定した。

1 生徒が生き生きと学べる学校づくりの推進

生徒の学習ニーズ、興味・関心等に適切に対応し、進路希望の実現を図るため、生徒が主体的に学ぶことができる魅力ある学校づくりを推進する。

2 一人一人の個性を伸ばす教育の推進

生徒の多様な個性を伸ばすため、選択幅の広い教育課程を編成するなど、生徒一人一人の資質・能力を伸ばす教育を推進する。

3 確かな学力を育てる教育の推進

生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路選択を行い自己実現を図るため、基礎・基本となる確かな学力を育てる教育を推進する。

4 豊かな人間性を培う教育の推進

正義感や倫理観、社会性や協調性、思いやりや柔らかな感性を育むため、豊かな人間性を培う教育を推進する。

5 社会の変化に対応できる力を育む教育の推進

これからの新しい社会の中をたくましく生き抜くため、主体的に考え、判断できる力や変化に柔軟に対応できる力を育む教育を推進する。

3 計画策定の前提条件

- (1) 計画は国の学級編制基準、高校標準法（注1）など、現行制度の下で策定する。
- (2) 高等学校等進学率は、各学区で、平成14年度の想定進学率を基礎として、毎年度0.1%上昇させることとし、上限を99.1%とする。（注2）
- (3) 流出入率（注3）は、平成14年度の数値を用いる。
- (4) 中学校卒業生徒数は、平成22年度までは平成14年5月1日現在の小・中学校の在籍生徒数から推計し、平成23年度以降25年度までは各歳人口から推計する。

なお、今後、市町村合併等社会状況の変化や国の法改正など特段の事情がある場合には、計画の見直しを行うこともある。

（注1）高校標準法

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律。

（注2）想定進学率

全県の高校進学率は、平成9年度から14年度まで、毎年度平均0.14%上昇した。今後、上昇は緩やかになると予想されることから、各学区とも毎年度の進学率の上昇を0.1%とした。これまで最も高い進学率は、平成11年度上越地区の99.1%であることから、全県の各学区の進学率の上限を99.1%とした。

（注3）流出入率

他学区からその学区の高校へ進学した生徒数を流入者数、その学区から他学区の高校へ進学した生徒数を流出者数としたとき、その差を流出入者数という。流出入率はその学区の中学校卒業生徒数に対する流出入者数の割合をいう。

第3章 計画の基本方針及び枠組み

1 計画の基本方針

中長期高校再編整備計画の理念の下に、以下の方針に沿って計画を具体化していく。

- (1) 生徒の進路や生徒・保護者のニーズ等を踏まえ、普通科系学科と専門学科との定員比率を適正なものにする。
- (2) 時代や社会の変化、地域のニーズ等を踏まえ、教育内容を見直すとともに、それらを反映した学科・コースに再編整備する。
- (3) 多様な教育課程が編成できるように、特色ある教育活動の展開や学校の活力を維持するため、学校規模を適正なものにする。
- (4) 中学生の進路動向等を踏まえ、原則として学区内での学習希望がかなえられるようにするため、学校・学科等を適正に配置する。
- (5) 生徒の学習ニーズに対応し、多様なコース・類型を設けるなど、普通科の特色を進めるとともに、専門学科の一層の充実を図る。
- (6) 学校間連携（注）や生徒の転学、転科など、普通科、総合学科、専門学科間の交流・連携を進める。

（注）学校間連携

当該高校の生徒が連携先の高校で修得した教科・科目の単位を自校の単位として認定できる制度。

2 計画の枠組み

- (1) 原則として学区完結型（注）とする。
- (2) 学級定員は、原則として1学級40人とするが、海洋科学科と海洋工学科は、1学級35人とする。
また、農業科、工業科については、学校・学科の統合、再編整備の過程で専門教育の充実を図るため、必要に応じて学級定員を1学級35人とする。
- (3) 学校の規模は、選択を重視した教育課程や、部活動・学校行事等を効果的に実施して、生徒の個性や能力を伸ばし社会性や協調性等を身につけさせるため、1学年4～8学級を標準とする。
ただし、就学機会の保障の観点から、中山間地域や豪雪地等にある学校は標準を下回る場合もある。
- (4) 分校は平成20年度までに原則として募集停止とする。
- (5) 普通科系学科の定員比率は、生徒・保護者の進路希望に対応するため、平成17年度までに全県平均で概ね80%程度とする。
- (6) 通学区域は現行の8通学区域とする。
- (7) 各学区の公立高校と私立高校の募集定員の比率は、平成13年度の数値を基準とする。（全県平均 公立83%：私立17%）

（注）学区完結型

専門学科等については、従来通り通学区は全県一円であるが、生徒の学校・学科の選択幅が大きく異なることのないよう、生徒が無理なく通学できる範囲に学校・学科を適切に配置するという考え方。

第4章 具体計画

1 学校・学科等の在り方

これからの学校教育においては、学力を単に知識や技能の量として捉えるのではなく、生徒が自ら考え主体的に判断し行動するために必要な資質や能力などを含めた総合力として捉えることが必要である。そのため、生徒の能力・適性、興味・関心、進路等の多様化に対応して、教育内容や方法はもちろん、学校制度や学科の枠組みの多様化を図り、生徒の主体的な選択による学習を促していくことが求められている。

これらを踏まえ、次のような方向に沿って学校・学科等の整備を進める。

1 普通科及びその他の専門学科を設置する高校

生徒の多様化に適切に対応するため、多様な教科・科目の設置、コース等の導入、社会の進展に対応した新たな学科の新設等、各学校の特色化を進める。

2 総合学科を設置する高校

生徒の多様な学習ニーズ等に適切に対応するため、生徒が通学できる範囲に1校は設置していくとともに、系列の新設、再編成を積極的に進める。

3 農業、工業、商業、水産、家庭の学科を設置する専門高校

生徒・保護者や産業界のニーズに対応し、基礎的・基本的な知識や技術・技能の習得、さらに将来のスペシャリストを育成するため、学校の統合や学科の再編等を進める。

4 単位制高校

生徒の幅広いニーズに対応し、履修形態の多様化や選択幅の拡大等を図るため、単位制高校の設置を進める。

5 中高一貫教育校

6年間の一貫教育から生まれるゆとりの中で、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すため、中高一貫教育校の設置を検討する。

(1) 普通科

多様な資質や能力をもった生徒が学んでいる実態を踏まえ、生徒一人一人が自らの能力や適性を見出し、将来への目標を明確に持って、主体的に学習できる教育課程を編成するなど、特色化を進める。

ア 生徒の多様な学習ニーズや進路希望等に適切に対応するため、教科・科目の選択幅の拡大を図り、進路希望に即した選択科目の履修を可能とするなど各自の進路実現を目指す。

イ 生徒の実態や進路希望等に応じて、福祉、語学、スポーツ、芸術、伝統文化、情報等や、職業に関する科目、その他の専門科目も履修できるコース制（注）等の積極的な導入を進める。

（注）コース制

特定の学習分野に関する興味・関心や進路希望に応じて、系統的に学習する教科・科目を選択できる制度。入学時から、あるいは入学して一定期間経過後に選択する2つのタイプがある。

<分野別の特色ある類型、コース>

普通教育に関する分野

普 通.....普通科の教科・科目を学習する。主に2年次から、文系・理系に分かれ、進路希望の実現を目指す。

人文探究.....講読・演習などを多く取り入れながら、文系の科目を深く学習し、幅広い知識と応用力等を育成する。

自然探究.....観察や実験などを多く取り入れながら、理数系の教科・科目を深く学習し、論理的・科学的な思考力等を育成する。

国際理解教育に関する分野

国 際.....英語をはじめとする外国語や世界の諸地域の文化を学習するとともに、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションができる能力の基礎を育成する。

国際理解.....国際政治・経済、環境、開発、資源、人権、異文化等に関する科目の履修を通じて、国際感覚を養うとともにグローバルな発想ができる国際人としての教養を高める。

情報教育に関する分野

情 報.....コンピュータなどの情報機器を活用して、多様な情報を分析・処理し、活用できる力を育成する。

情報ビジネス...コンピュータなどの情報機器を活用しながら、ビジネスに関する基礎的な知識と技能を習得する。

家庭・福祉に関する分野

生活設計.....商品、消費行動、消費生活、衣食住などに関する基本的知識と技能を習得し、充実した豊かな家庭生活を営むための態度と能力を養う。

服飾デザイン...服飾デザインに関する基本的知識と技能を習得し、服飾を創造的にデザインする態度と能力を養う。

福祉.....高齢者・障害者福祉などに関する基礎的な知識を習得し対人援助に関する基本的な技能を高める。

芸術・文化に関する分野

芸術.....音楽、美術、書道等の教科・科目を幅広く学習し、基礎的な知識・技能を習得するとともに、芸術に対する豊かな感性を養う。

演劇.....演劇レッスン、脚本の研究、実際の舞台鑑賞などの演劇に関する基礎的な知識と技能を学習することを通して、自己表現力やコミュニケーション能力を養う。

伝統文化.....地域の自然、歴史、文化、伝統芸能、産業などについて、地域の人材を活用しながら総合的に学習し、地域に対する愛情を育むとともに、地域文化の担い手として活動できる態度と能力を育成する。

スポーツ・その他の分野

スポーツ.....さまざまなスポーツやレクリエーション、健康に関する学習などを通して、心身ともに健全な人間の育成を目指すとともに、競技スポーツの振興に資する。

観光.....旅行や観光に関する基本的知識、対人マナーや応対に関する実践的スキルを習得することを通して、コミュニケーション能力や情操豊かな人間性を養う。

(2) その他の専門学科（理数科、音楽科、音楽科、体育科等）

ア 外国語科（注1）や国際科（注2）、科学技術研究の基礎を学ぶことができる自然科学科（注3）など、新たな学科の設置について検討する。

イ 理数科、英語科、音楽科等既存の学科においては、生徒の学習ニーズや社会の変化等に適切に対応するため、教育内容、教育活動等の見直しを進め、学科の一層の活性化を図る。

(3) 総合学科（注4）

ア 生徒の進路希望に対応して、普通科系科目に重点を置いた総合学科や、職業系科目に重点を置いた総合学科を配置する。

イ 生徒の学習ニーズや、時代、社会の変化に適切に対応するため、系列の新設、再編成を積極的に進める。

（注1）外国語科

英語を中心としながら、英語以外の外国語も学び、学習する言語が使用されている地域の文化などの学習を通して、国際感覚豊かな発想・行動ができる人材を育成する。

（注2）国際科

国際社会の中で、確かな英語力と国際政治・経済、環境、開発、資源、人権、異文化等に関する知識を習得し、豊かな国際感覚を持った人材を育成する。

（注3）自然科学科

自然科学の基本的知識と観察・実験に関するノウハウを習得するとともに、科学技術の応用に関する分野の学習を通じて、自然科学に関する学習方法を身につけ、科学技術の発展に貢献できる人材を育成する。

（注4）総合学科

原則履修科目である「産業社会と人間」等の学習を通して、自分の生き方を考えながら、進路への自覚を深め、多様な開設科目から進路希望に沿う科目を選択し、学習を進めていくことができる学科。

(4) 専門学科

科学技術の一層の進展や社会構造の複雑化、多様化の中で、時代の流れや変化を的確に捉え、職業人として主体的に社会に貢献できる人材の育成を目指す。

- ア 専門的な知識や技術を有する人材（将来のスペシャリスト）となるための基礎を培う教育を推進する。
- イ 社会のニーズや生徒のニーズに対応するため、学校の統合や学科の再編を進めるとともに、コース制の導入、新しい教科・科目の設定等特色ある教育課程を編成する。
- ウ くくり募集（注）を進めるとともに、学科の枠を越えた柔軟な学習が可能となるよう多様な教育課程を工夫し、学科を融合・統合化した教育を推進する。
- エ 実習を通して技術を習得し専門性を高めるため、近隣の専門機関や研究機関等と連携した教育を推進する。
- オ 地域社会や企業との協力体制を確立し、地域産業や伝統産業の振興に寄与できる人材の育成を図る。
- カ 高等教育機関での学習を希望する生徒の増加が見込まれることから、生徒の学習ニーズや進路希望に対応した教育課程を編成する。
- キ 生徒が産業界等における最新の知識・技術を身につけ、望ましい勤労観や職業観を育成するため、学校外の職業人等の活用を図る。

(注) くくり募集

複数の学科やコースを一括して（くくって）入学者を募集すること。1年間、あるいは半年間共通の学習を行った後に、自分の興味・関心や適性、進路希望等によって、学科やコースを選択させる。

農業科

- (ア) 21世紀の「食」と「環境」を担う豊かな資質を持った人材を育成するため、農産物の生産・加工・流通を有機的に結びつけた食料供給に関する学習分野を充実させるとともに、都市緑地、造園、環境保全など環境創造に関する学習分野を導入するなど、教育内容の改善を図る。
- (イ) 大規模農業、地域農業、複合農業など農業経営の多様化、農業技術の高度化、農産物流通の国際化など農業を取り巻く変化に適切に対応し、新しい経営能力と技術を持った農業後継者の育成、農業関連産業を支える専門知識を持った技術者の育成を図るため、学科改編やくくり募集、コース制の導入をさらに進める。
- (ウ) 農業や農村の特性を生かした、ヒューマンサービス(注)など、新しい分野に関する学習を積極的に取り入れる。

工業科

- (ア) 技術革新の急速な進展や製造業の国際化が進む中、「ものづくり」を支える実践的態度の育成、専門的知識や技術・技能の習得、また、将来のスペシャリストとして必要とされる「専門性」の基礎・基本となる知識・技術の習得を目指すなど、教育内容の改善を図る。
- (イ) 社会や産業の変化、生徒の進路希望等に柔軟に対応していくため、くくり募集の導入、学校・学科の統合、再編整備を進める。
- (ウ) 実習を通して技術を習得し専門性を高めるため、専門機関や研究機関等と連携を図りながら、学校外の職業人等の有効活用や地域産業等における就業体験学習などを充実させる。
- (エ) 県内の地域産業の要請や生徒の進路希望等を踏まえ、すべての地域で電気系、機械系の学習機会を確保し、建築系、土木系の学習も可能となるよう学校・学科を配置する。また、地域産業の特性を配慮して、化学系、繊維系、デザイン系の学科の配置についても検討する。

(注) ヒューマンサービス

栽培や飼育体験、農産物加工の実習などの、農業・農村体験を生かした、対人サービス。

商業科

- (ア) 経済社会の国際化、情報化、サービス化等に適切に対応し、マーケティング能力、会計活用能力、情報活用能力等を持った人材を育成するため、教育内容の充実を図る。
- (イ) 学校や生徒の実態、地域産業のニーズを踏まえ、商業科、会計科、情報処理科等の既存の小学科の内容の見直しを図るなどして、学科再編を進めるとともに、流通ビジネス、国際ビジネス、会計ビジネス、情報マネジメント、情報ビジネスなどに関する学習を積極的に取り入れる。
- (ウ) 生徒の進路希望の多様化、地域や産業界のニーズの変化、雇用情勢の変化等に対応するため、資格取得や進路ガイダンスを重視するなどして進路実現を図る。

水産科

- (ア) 水産や海洋に関する分野における生産、加工、流通や海洋環境の保全と利用など、「食」と「環境」に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、水産業及び海洋関連産業において活躍できる人材を育成するため、捕る漁業から育てる漁業への変化、ダイビングなどの海洋レクリエーション産業の拡大等、関連産業の多様化を踏まえ、既存のコースの内容の見直しを進めるなどして、教育内容の改善を図る。
- (イ) 海洋、食品、マリンスポーツ等に関する各種資格の取得を学習の中心に置き、生徒の多様な進路希望の実現を図る。

家庭科

消費者ニーズの多様化、少子・高齢化の進展、生活様式や価値観の多様化等に対応して教育内容を改善するとともに、生徒の多様な進路希望や産業界のニーズに適切に対応するため、ライフデザイン、保育、家庭看護、福祉、食文化、服飾デザイン等に関する科目やコースを適切に設置する。

(5) **単位制高校**（注1）

- ア 多様な学習ニーズや生涯学習の推進等の観点から、どの地域においても希望すれば学ぶ機会が確保されるよう単位制高校を適正に設置する。
- イ 通信制等を含む複数の課程を持ち、定通併修（注2）大学入学資格検定、実務代替（注3）、学校間連携等の様々な学習成果を評価する制度を活用した単位制高校を設置する。
- ウ 地域の施設や人材を活用した講座や、地域に開かれた「社会人講座」を拡充する。
- エ インターネットを活用した授業を導入するなどして、学習機会の幅を広げていく。
- オ 夜間定時制高校を募集停止するに伴い、生徒の進学実態を踏まえ、必要に応じ単位制高校に夜間部の設置を検討する。

（注1）単位制高校

学年の区分を越えて、生徒の主体的な科目選択に基づき学習を進めていく高校。生徒が自ら作成した時間割に基づいて、自分のペースで学習することができる。

（注2）定通併修

定時制・通信制課程相互において、生徒が他の課程で修得した単位が、自校の単位として認められること。

（注3）実務代替

定時制・通信制課程の生徒が従事する職業の実務等をもって、職業に関する教科・科目の履修に替えること。

(6) 中高一貫教育校

ア 中等教育の複線化を進め、「ゆとり」ある教育の中で生徒一人一人の個性を伸ばし、地域中等教育全体の活性化を図るため、既設校の成果や県民のニーズ等を踏まえて、長期的に中高一貫教育校の適正な配置について検討を進める。

イ 中高一貫教育校の設置に当たっては、県と市町村の役割分担等について、関係市町村と十分な協議を行う。

(7) 分校

生徒の通学状況の変化や交通事情の改善等により、就学機会を確保するという設置本来の趣旨が失われた分校から募集停止とする。

なお、不登校経験者等を含む多様な入学希望者については、より柔軟な学習形態が選択可能となる単位制高校で受け入れていくこととする。

(8) 夜間定時制高校

勤労青少年に対する教育を担ってきた夜間定時制高校については、就労している生徒が減少するなど設置本来の役割が失われてきていることから、募集停止とする。

なお、現在、夜間定時制高校は、不登校経験者や中途退学者等の入学が増え、多様な生徒の学習の場となっていることから、入学希望者については、より柔軟な学習形態が可能となる単位制高校で受け入れていくこととする。

(9) 通信制高校

柔軟な学習形態に興味を感じて入学する生徒、進路変更により転編入学する生徒、生涯学習の観点から入学を希望する社会人等が増加しつつある中で、多様な学習ニーズに幅広く対応するため、インターネットを活用した授業形態の導入を図るなど通信制教育の充実を図る。

2 年次計画案（平成15年～平成25年）

計画案の概要については、生徒の進路希望、国の法改正等状況の変化が生じた場合、中期計画と長期計画における検討事項との間で、計画内容が前後することもあり得る。

なお、学校数、募集学級数については、平成25年度までの検討対象校も含まれている。

*平成13年～平成23年度までは平成14年5月1日現在の学校基本調査の数値による。

*平成24年、25年度については平成14年7月1日現在の県統計課の数値による。

ア 全県の中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		29,155	25,417	22,620	-6,535
全日制	学校数 (分校外数)	99(5)	89(2)	84(0)	-15(-5)
	募集学級数	584	505	447	-137
定時制	学校数 (併置分校内数)	12(7)	10(3)	7(0)	-5(-7)
	募集学級数 (単位制学級数)	21(13)	25(22)	22(22)	1(9)

イ 全県の学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	375	64.2	72.8	327	64.7	78.2	295	66.0	82.8
	その他学科	19	3.3		18	3.6		22	4.9	
	総合学科	31	5.3		50	9.9		53	11.9	
専門学科	農業科	159	27.2	27.2	110	21.8	21.8	77	17.2	17.2
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科									
看護科										
合計		584			505			447		
単位制高校		13			22			22		

(注) 中等教育学校の後期課程及び併設型の高等学校は普通科としてカウントしてある。

(1) 新発田・村上学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		4,192	3,601	3,060	-1,132
全日制	学校数 (分校外数)	13(1)	12(0)	12(0)	-1(-1)
	募集学級数	81	72	61	-20
定時制	学校数 (併置分校内数)	3(2)	2(1)	1(0)	-2(-2)
	募集学級数 (単位制学級数)	5(3)	4(3)	3(3)	-2(0)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	50	61.7	72.8	45	62.5	75.0	41	67.2	78.7
	その他学科	3	3.7		3	4.2		2	3.3	
	総合学科	6	7.4		6	8.3		5	8.2	
専門学科	農業科	22	27.2	27.2	18	25.0	25.0	13	21.3	21.3
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計	81			72			61			
単位制高校(定時制)		3			3			3		

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	<ul style="list-style-type: none"> ・新発田農業高校の学科再編 ・豊栄高校商業科を普通科へ転換
平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ・村上高校山北分校の募集停止 ・西新発田高校定時制課程の募集停止
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ・水原高校と安田高校の統合

年 度	今後の検討事項
平成18年～25年	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校の設置 ・工業科の統合再編 ・新発田南高校豊浦分校定時制課程の募集停止 ・特色ある学科の新設

(2) 新津・五泉学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		1,792	1,536	1,317	-475
全日制	学校数 (分校外数)	6(0)	6(0)	5(0)	-1(0)
	募集学級数	33	28	25	-8
定時制	学校数 (併置分校内数)	1(0)	0(0)	0(0)	-1(0)
	募集学級数 (単位制学級数)	1(0)	0(0)	0(0)	-1(0)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	26	78.8	78.8	20	71.4	92.8	18	72.0	100
	その他学科							1	4.0	
	総合学科				6	21.4		6	24.0	
専門学科	農業科	7	21.2	21.2	2	7.2	7.2	0	0	0
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計		33			28			25		
単位制高校(定時制)										

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	・五泉高校定時制課程の募集停止
平成16年	
平成17年	・五泉高校を総合学科へ改組

年 度	今後の検討事項
平成18年～25年	・特色ある学科の新設

(3) 新潟学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		6,241	5,560	5,168	-1,073
全日制	学校数 (分校外数)	14(0)	13(0)	13(0)	-1(0)
	募集学級数	116	99	89	-27
定時制	学校数 (併置分校内数)	2(0)	2(0)	2(0)	0(0)
	募集学級数 (単位制学級数)	5(4)	8(8)	8(8)	3(4)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	85	73.3	76.7	73	73.7	78.8	65	72.9	86.5
	その他学科	4	3.4		5	5.1		6	6.8	
	総合学科							6	6.8	
専門学科	農業科	27	23.3	23.3	21	21.2	21.2	12	13.5	13.5
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計		116			99			89		
単位制高校(定時制)		4			8			8		

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	
平成16年	・黒埼高校、船江高校、新潟高校通信制を統合し、黒埼高校の校地・校舎を使用して単位制高校の設置
平成17年	

年 度	今後の検討事項
平成18年～25年	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校の統合再編 ・総合学科の新設 ・中高一貫教育校の設置 ・特色ある学科の新設

(4) 三条・西蒲学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		4,388	3,857	3,249	-1,139
全日制	学校数 (分校外数)	15(0)	13(0)	12(0)	-3(0)
	募集学級数	87	77	65	-22
定時制	学校数 (併置分校内数)	1(1)	1(1)	0(0)	-1(-1)
	募集学級数 (単位制学級数)	1(0)	1(0)	0(0)	-1(0)

イ 学科別学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	52	59.8	62.1	51	66.2	75.3	45	69.2	78.5
	その他学科	2	2.3		2	2.6		1	1.6	
	総合学科				5	6.5		5	7.7	
専門学科	農業科	33	37.9	37.9	19	24.7	24.7	14	21.5	21.5
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計		87			77			65		
単位制高校(定時制)										

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻農業高校と巻工業高校を統合し、巻農業高校の校地・校舎を使用して巻総合高校の設置 ・ 吉田商業高校を普通科に転換し吉田高校へ改組
平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三条工業高校と燕工業高校を統合し県央工業高校(仮称)の設置
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高一貫教育校の設置を検討

年 度	今後の検討課題
平成18年～25年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の統合再編 ・ 専門学科の整理 ・ 特色ある学科の新設 ・ 三条高校定時制課程の募集停止

(5) 長岡・柏崎学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		5,241	4,446	4,092	-1,149
全日制	学校数 (分校外数)	16(2)	13(1)	14(0)	-2(-2)
	募集学級数	100	83	76	-24
定時制	学校数 (併置分校内数)	1(0)	2(0)	2(0)	1(0)
	募集学級数 (単位制学級数)	4(4)	6(6)	6(6)	2(2)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	55	55.0	64.0	47	56.6	69.9	46	60.5	76.3
	その他学科	3	3.0		1	1.2		3	4.0	
	総合学科	6	6.0		10	12.1		9	11.8	
専門学科	農業科	36	36.0	36.0	25	30.1	30.1	18	23.7	23.7
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計	100			83			76			
単位制高校(定時制)		4			6			6		

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	・長岡商業高校の学科再編 ・柏崎に柏崎翔洋中等教育学校の設置
平成16年	・長岡農業高校山古志分校の募集停止
平成17年	・与板高校と寺泊高校の統合

年 度	今後の検討事項
平成18年～25年	・柏崎高校小国分校の募集停止 ・中高一貫教育校の設置 ・専門学科の整理 ・特色ある学科の新設

(6) 魚沼学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		2,892	2,567	2,231	-661
全日制	学校数 (分校外数)	13(0)	12(0)	11(0)	-2(0)
	学級数	70	61	56	-14
定時制	学校数 (併置分校内数)	3(3)	2(1)	1(0)	-2(-3)
	学級数 (単位制学級数)	3(0)	4(3)	3(3)	0(3)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	51	72.9	88.6	40	65.6	91.8	35	62.5	92.9
	その他学科	6	8.6		6	9.8		7	12.5	
	総合学科	5	7.1		10	16.4		10	17.9	
専門学科	農業科	8	11.4	11.4	5	8.2	8.2	4	7.1	7.1
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計		70			61			56		
単位制高校(定時制)					3			3		

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	・塩沢商工高校の学科改編
平成16年	・堀之内高校を単位制高校へ改組 ・小出高校定時制課程の募集停止 ・六日町高校定時制課程の募集停止
平成17年	・中高一貫教育校の設置を検討

年 度	今後の検討事項
平成18年～25年	・小規模校の統合再編 ・特色ある学科の新設 ・十日町高校定時制課程の募集停止

(7) 上越学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減(H25-H13)
中学校卒業生徒数		3,629	3,189	2,913	-716
全日制	学校数 (分校外数)	16(1)	15(1)	13(0)	-3(-1)
	募集学級数	77	68	60	-17
定時制	学校数 (併置分校内数)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)
	募集学級数 (単位制学級数)	2(2)	2(2)	2(2)	0(0)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25		
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計
普通科系 学科	普通科	39	50.6	66.2	37	54.4	70.6	33	55.0	73.3
	その他学科	1	1.3		1	1.5		2	3.3	
	総合学科	11	14.3		10	14.7		9	15.0	
専門学科	農業科	26	33.8	33.8	20	29.4	29.4	16	26.7	26.7
	工業科									
	商業科									
	水産科									
	家庭科 看護科									
合計	77			68			60			
単位制高校(定時制)		2			2			2		

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	・高田工業高校と直江津工業高校を統合し、高田工業高校の校地・校舎を使用して上越総合技術高校の設置
平成16年	
平成17年	

年 度	今後の検討課題
平成18年～25年	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の統合再編 ・中高一貫教育校の設置 ・専門学科の整備 ・特色ある学科の新設 ・安塚高校松之山分校の募集停止

(8) 佐渡学区

ア 中学校卒業生徒数、学校数、募集学級数の推移

		H13	H17	H25	増減 (H25-H13)
中学校卒業生徒数		780	661	590	-190
全日制	学校数 (分校外数)	6(1)	5(0)	4(0)	-2(-1)
	募集学級数	20	17	15	-5
定時制	学校数 (併置分校内数)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	募集学級数 (単位制学級数)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

イ 学科別募集学級数の推移

		H13			H17			H25			
		学級数	%	%計	学級数	%	%計	学級数	%	%計	
普通科系 学科	普通科	17	85.0	100	14	82.4	100	12	80.0	100	
	その他学科										
	総合学科	3	15.0		3	17.6		3	20.0		
専門学科	農業科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	工業科										
	商業科										
	水産科										
	家庭科 看護科										
合計	20			17			15				
単位制高校(定時制)											

ウ 計画案の概要

年 度	計 画 案
平成15年	
平成16年	・佐渡高校と佐渡女子高校の統合
平成17年	・羽茂高校赤泊分校の募集停止

年 度	今後の検討課題
平成18年～25年	・中高一貫教育校の設置 ・小規模校の統合再編

3 学校・学科等の配置計画案

(以下の数値には平成25年度までの検討対象校も含まれている)

(1) 学級規模別学校数の推移(全日制独立校の数)(1年生の学級数を基準とする)

	10以上	9学級	8学級	7学級	6学級	5学級	4学級	3学級	2学級	計
H13	7	9	11	12	16	12	10	14	8	99
H17	4	4	12	14	14	12	12	7	10	89
H25	0	0	12	9	16	17	20	7	3	84(15)

(注) は対13年度比

(2) 普通科系学科(全日制)(併置学科を含む)

(上段は学校数、下段は1年生の総学級数)

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	10	5	11	8	10	13	11	6	74
	59	26	89	54	64	62	51	20	425
H17	9	5	10	11	9	11	11	5	71
	54	26	78	58	58	56	48	17	395
H25	9	5	12	9	10	10	9	4	68
	48	25	77	51	58	52	44	15	370

(注) 普通科系学科(普通科、総合学科、その他の専門学科、中等教育学校の後期課程)

普通科(上段は学校数、下段は1年生の総学級数)

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	9	5	11	8	9	10	9	5	66
	50	26	85	52	55	51	39	17	375
H17	7	4	10	9	7	8	9	4	58
	43	20	73	51	47	40	37	14	325
H25	7	4	10	8	7	7	7	3	53
	39	18	65	45	44	35	33	12	291

その他の専門学科（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	2	0	3	1	2	2	1	0	11
	3	0	4	2	3	6	1	0	19
H17	2	0	4	1	1	2	1	0	11
	3	0	5	2	1	6	1	0	18
H25	2	1	5	1	2	3	2	0	16
	2	1	6	1	3	7	2	0	22

総合学科（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	1	0	0	0	1	1	2	1	6
	6	0	0	0	6	5	11	3	31
H17	1	1	0	1	2	2	2	1	10
	6	6	0	5	10	10	10	3	50
H25	1	1	1	1	2	2	2	1	11
	5	6	6	5	9	10	9	3	53

中高一貫教育校（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	1	0	1	1	1	0	0	5
	2(2)	2(1)	0		0(2)		0	0	4(5)
H25	2	1	1	1	2	1	1	1	10
	2(2)	2(1)			2(2)				6(5)

(注)()内は中学校部分の数。高校部分は再掲。

* 空欄は検討中。総学級数は平成15年度までの確定値である。

(3) 専門学科（併置学科を含む）

（注）併置学科については、ダブルカウントしている。

複数の異なる学科を持つ学校については、ダブルカウントしている。

農業科（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	1	0	0	2	2	0	2	0	7
	7	0	0	10	7	0	6	0	30
H17	1	0	0	1	1	0	1	0	4
	6	0	0	6	4	0	4	0	20
H25	1	0	0	1	1	0	1	0	4
	4	0	0	5	4	0	4	0	17

工業科（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	2	1	3	3	2	1	2	0	14
	7	4	17	10	14	2	10	0	64
H17	2	1	3	1	2	1	1	0	11
	6	2	13	6	12	2	7	0	48
H25	1	0	1	1	2	1	1	0	7
	4	0	6	5	9	2	5	0	31

商業科（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	2	1	1	2	2	2	1	0	11
	8	3	8	11	11	5	5	0	51
H17	1	0	1	1	1	1	1	0	6
	6	0	7	5	7	3	4	0	32
H25	1	0	1	1	1	1	1	0	6
	5	0	6	4	5	2	4	0	26

(4) 単位制高校（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	1	0	1	0	1	0	1	0	4
	3	0	4	0	4	0	2	0	13
H17	1	0	2	0	2	1	1	0	7
	3	0	8	0	6	3	2	0	22
H25	1	0	2	0	2	1	1	0	7
	3	0	8	0	6	3	2	0	22

(5) 分校（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	2	0	0	0	2	0	1	1	6
	2	0	0	0	2	0	1	1	6
H17	1	0	0	0	1	0	1	0	3
	1	0	0	0	1	0	1	0	3
H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（注）新発田・村上学区の新発田南高校豊浦分校定時制課程を含む。

(6) 夜間定時制高校（上段は学校数、下段は1年生の総学級数）

	新発田村上	新津五泉	新潟	三条西蒲	長岡柏崎	魚沼	上越	佐渡	計
H13	1	1	1	1	0	3	0	0	7
	1	1	1	1	0	3	0	0	7
H17	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	0	0	0	1	0	1	0	0	2
H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第5章 今後の募集学級計画

1 今後の募集学級計画策定の進め方

今後は、この第5章についてのみ、毎年、次年度以降の直近の3ヶ年分の募集学級計画案として公表していくが、生徒の進路希望、流出入状況等を勘案して、学級数の増減等の微調整もあり得る。

(1) 平成15年度の募集学級計画

平成15年度の募集学級計画については、平成14年9月に正式な案として公表し、議会における議論を経た上で平成14年10月末に決定した。

(2) 平成16年度以降の募集学級計画

平成16年以降の募集学級計画案を公表するとともに、各学校の学級数調整レベルの計画案については、平成15年9月に正式な案として公表し、議会における議論を経た上で平成15年10月に決定する。

なお、平成17年度以降については、平成16年度の募集学級計画の決定と同様の手順で行う。

2 募集学級計画案（平成15年度～平成17年度）

（1）新発田・村上学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
村上	普通	7	7	7	7	6	
（山北分校）	普通	1	1	1	*		平成16年度募集停止
村上女子	普通	3	*				平成14年度募集停止
村上中等教育学校	（前期課程）		(2)	(2)	(2)	(2)	平成14年度村上女子内に設置
	普通（後期課程）					2	
村上桜ヶ丘	総合	6	6	6	6	6	平成13年度総合学科に改組
荒川	普通	*					平成13年度単位制（定）に改組
中条工業	機械システム	1	1	1	1	1	
	電気	2	2	2	1	1	
中条	普通	4	5	5	5	5	
	英語	2	2	2	2	2	
新発田	普通	8	8	8	8	7	
	理数	1	1	1	1	1	
西新発田	普通	8	8	8	8	8	
新発田南	普通	5	6	6	6	6	
	機械	2	2	2	2	2	
	建築	1	1	1	1	1	
	土木	1	1	1	1	1	
新発田農業	生産技術	4	4	*			平成15年度募集停止
	農業経済	1	1	*			
	食品科学	1	1	*			
	生活	1	1	*			
	食料科学			3	3	3	平成15年度学科改編
	環境科学			2	2	2	
新発田商業	商業	5	5	5	5	5	
	情報処理	1	1	1	1	1	
水原	普通	7	6	5	5	*	平成17年度募集停止
安田	普通	2	2	2	2	*	平成17年度募集停止
水原・安田	普通					5	平成17年度水原と安田の統合
豊栄	普通	5	5	7	7	6	平成15年度商業科募集停止
	商業	2	2	*			
計		81	79	77	75	72	

【単位制高校（定時制）】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
西新発田	普通	1	1	1	*		平成16年度募集停止
新発田南 豊浦分校	普通	1	1	1	1	1	
荒川	普通	3	3	3	3	3	平成13年度単位制（定）に改組
計		5	5	5	4	4	

(2) 新津・五泉学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
新津	普通	8	8	8	8	8	
新津工業	機械	1	1	1	1	1	
	機械システム	1	1	1	1	1	
	電気	1	1	1	1	*	平成17年度募集停止
	電子	1	1	*			平成15年度募集停止
新津南	普通	6	6	5	5	5	
五泉	普通	4	4	4	4	*	平成17年度募集停止
	商業	2	2	2	2	*	
	情報経理	1	1	1	1	*	
五泉総合(仮称)	総合					6	平成17年度総合学科の新設
村松	普通	6	6	5	5	5	
阿賀黎明	普通	2	2	2	2	2	
阿賀黎明中学			(1)	(1)	(1)	(1)	
計		33	33	30	30	28	

【単位制高校(定時制)】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
五泉	商業	1	1	*			平成15年度募集停止
計		1	1				

(3) 新潟学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
新潟	普通	9	9	9	9	9	
	理数	1	1	1	1	1	
新潟中央	普通	9	9	8	8	7	
	食物 音楽	1	1	1	1	1	
新潟南	普通	10	10	10	10	9	
新潟江南	普通	8	8	8	8	8	
	看護	1	*				平成14年度募集停止
新潟西	普通	9	9	8	8	8	
新潟東	普通	8	8	8	8	7	
新潟北	普通	8	8	7	7	7	
新潟工業	機械	2	2	2	2	2	
	電気	1	1	1	1	1	
	建築	2	2	2	2	2	
	土木	2	2	2	2	2	
	工業化学	1	1	1	1	1	
新潟東工業	機械	1	1	1	1	1	
	電子機械	2	2	2	1	*	平成17年度募集停止
	電気	2	2	1	1	1	
	電子	1	1	*			平成15年度募集停止
新潟商業	商業	4	4	4	4	3	
	会計	2	2	2	2	2	
	情報処理	2	2	2	2	2	
	国際教養	2	2	2	2	2	
新潟向陽	普通	7	7	7	7	7	
黒埼	普通	4	4	3	*		平成16年度募集停止として、船江、新潟通信制を統合し黒埼の校地・校舎を使用して単位制高校の設置
沼垂(万代)	普通	6	5	5	5	5	
	英語理数			1	1	1	平成15年度総合選択制高校に改組
	家政	*					平成13年度募集停止
高志	普通	7	6	6	6	6	
	機械	2	2	2	2	2	
	電気	1	1	1	1	1	
計		116	113	108	104	99	

【単位制高校(定時制)】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
船江	普通	1	1	1	*		平成16年度黒埼との統合
黒埼・船江・新潟通信制	普通				4	4	平成16年度単位制高校の設置
明鏡	普通	4	4	4	4	4	
計		5	5	5	8	8	

(4) 三条・西蒲学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
巻	普通	9	9	9	9	8	
巻農業	農業	1	1	*			平成15年度募集停止
	園芸	1	1	*			
	造園	1	1	*			
	食品流通	1	1	*			
巻総合	総合			5	5	5	平成15年度巻農業と巻工業を統合し、巻農業の校地・校舎を使用して巻総合の設置
巻工業	電気	1	1	*			平成15年度募集停止
	電子	1	1	*			
西川竹園	普通	2	2	2	2	2	
	生活文化	2	2	2	2	2	
吉田商業	商業	4	3	*			平成15年度普通科への改組
	情報経理	1	1	*			
吉田	普通			4	4	4	
分水	普通	4	4	4	4	4	
白根	普通	5	5	5	4	4	
三条	普通	9	9	8	8	8	
三条東	普通	9	9	9	9	8	
三条工業	機械	2	2	2	*		平成16年度燕工業と統合して県央工業（仮称）の設置
	電子機械	2	2	2	*		
	建設工学	1	1	1	*		
県央工業（仮称）					6	6	
三条商業	商業	5	4	4	4	4	
	情報経理	1	1	1	1	1	
	国際教養	2	2	2	2	2	
燕	普通	6	6	6	6	6	
燕工業	機械システム	2	1	1	*		平成16年度三条工業と統合して県央工業（仮称）の設置
	電気	1	1	1	*		
加茂	普通	8	7	7	7	7	
加茂農林	生産技術	3	3	3	3	3	
	農業経済	1	1	1	1	1	
	環境緑地	1	1	1	1	1	
	生物工学	1	1	1	1	1	
計		87	83	81	79	77	

【単位制高校（定時制）】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
三条	普通	1	1	1	1	1	
計		1	1	1	1	1	

(5) 長岡・柏崎学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
長岡	普通	10	10	9	9	9	
	理数	1	1	1	1	1	
長岡大手	普通	9	8	8	8	8	
	家政	1	1	1	1	1	
	被服	1	1	1	1	1	
長岡向陵	普通	9	8	8	8	8	
長岡農業	生産技術	2	2	2	2	2	
	農業経済	1	1	1	1	1	
	食品科学	1	1	1	1	1	
山古志分校	普通	1	1	1	*		平成16年度募集停止
長岡工業	機械	2	2	2	2	1	
	電子機械	2	2	2	2	2	
	電気	2	1	1	1	1	
	電子	1	1	1	1	1	
	工業化学	1	1	1	1	1	
	テキストデザイン工学	1	1	1	1	1	
長岡商業	商業	6	6	*			平成15年度募集停止
	会計	1	1	*			
	情報処理	1	1	*			
	総合ビジネス			6	6	6	平成15年度学科改編
	情報ビジネス			1	1	1	
見附	普通	5	5	5	5	5	
	家政	1	*				平成14年度募集停止
与板	普通	4	4	4	4	*	平成17年度募集停止
寺泊	普通	2	2	2	2	*	平成17年度募集停止
与板・寺泊						4	平成17年度寺泊と与板の統合
栃尾	総合	6	5	5	5	5	
柏崎	普通	6	7	6	6	6	
小国分校	普通	1	1	1	1	1	
柏崎翔洋 中等教育学校	前期課程			(2)	(2)	(2)	平成15年度設置
	普通(後期課程)						
柏崎常盤	普通	6	7	7	6	6	
	被服	1	*				平成14年度募集停止
柏崎農業	農業	1	*				平成14年度募集停止
	農業経済	1	*				
	食品科学	1	*				
高柳分校	普通	*					平成13年度募集停止
柏崎総合	総合		6	5	5	5	平成14年度柏崎農業、柏崎商業、柏崎常盤被服科を統合して総合学科に改組
柏崎工業	機械	1	1	1	1	1	
	電子機械	2	2	2	2	2	
	電気	1	1	1	1	1	
	工業化学	1	1	1	1	1	
柏崎商業	商業	2	*				平成14年度募集停止
	情報経理	1	*				
	国際教養	2	*				
西越	普通	2	*				平成14年度単位制高校に改組
計		100	92	88	86	83	

(5) 長岡・柏崎学区

【単位制高校(定時制)】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
長岡明德	普通	4	4	4	4	4	平成14年度西越を単位制(定)に改組
出雲崎	普通		2	2	2	2	
計		4	6	6	6	6	

(6) 魚沼学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
小千谷	普通	8	8	7	7	7	
小千谷西	普通	4	*				平成14年度募集停止し総合学科に改組
	家政	1	*				
	総合		5	5	5	5	
堀之内	普通	6	5	4	*		平成16年度単位制高校に改組
小出	普通	7	7	7	7	7	
国際情報	国際文化	2	2	2	2	2	
	情報科学	2	2	2	2	2	
六日町	普通	7	7	7	7	7	
八海	普通	2	2	2	2	2	
	体育	1	1	1	1	1	
	福祉	1	1	1	1	1	
塩沢商工	機械システム	2	2	2	2	2	
	商業	2	2	3	3	3	
	情報経理	1	1	*			平成15年度募集停止
湯沢	普通	3	3	2	2	2	
十日町	普通	8	8	8	8	8	
十日町総合	総合	5	5	5	5	5	
川西	普通	3	3	3	3	3	
津南	普通	3	3	3	4	4	
	商業	2	1	1	*		平成16年度募集停止
計		70	68	65	61	61	

【単位制高校（定時制）】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
小出	普通	1	1	1	*		平成16年度募集停止
六日町	普通	1	1	1	*		平成16年度募集停止
十日町	普通	1	1	1	1	1	
堀之内	普通				3	3	平成16年度単位制高校に改組
計		3	3	3	4	4	

(7) 上越学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
高田	普通	7	7	7	7	7	
	理数	1	1	1	1	1	
高田北城	普通	5	5	5	5	5	
	生活文化	2	2	2	2	2	
高田農業	生産技術	2	2	2	2	2	
	食品科学	1	1	1	1	1	
	農業土木	1	1	1	1	1	
	林産	1	1	1	1	*	平成17年度募集停止
高田工業	機械	1	1	*			平成15年度直江津工業と統合し高田工業の校地・校舎を使用して上越総合技術高校を設置
	電気	1	*				
	建築	2	2	*			
	土木	2	2	*			
	デザイン	1	1	*			
上越総合技術				7	7	7	平成15年度高田工業と直江津工業とを統合し高田工業の校地・校舎を使用して上越総合技術高校を設置
高田商業	商業	4	4	4	3	3	
	情報処理	1	1	1	1	1	
新井	総合	6	5	6	6	6	
直江津	普通	6	6	6	5	5	
直江津工業	電子機械	1	1	*			平成15年度高田工業と統合し高田工業の校地・校舎を使用して上越総合技術高校を設置
	電気	1	1	*			
	化学工学	1	*				
有恒	普通	3	3	3	3	3	
吉川	普通	2	2	2	2	2	
	醸造	1	*				平成14年度募集停止
柿崎	普通	4	4	4	3	3	
松代	普通	2	2	2	2	2	
安塚	普通	2	2	2	2	2	
松之山分校	普通	1	1	1	1	1	
糸魚川	普通	7	7	7	7	7	
糸魚川白嶺	総合	5	5	4	4	4	
海洋	海洋科学	1	1	1	1	1	
	食品科学	1	1	1	1	1	
	海洋工学	1	1	1	1	1	
計		77	73	72	69	68	

【単位制高校（定時制）】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
高田南城	普通	2	2	2	2	2	
計		2	2	2	2	2	

(8) 佐渡学区

【全日制】

学校名	科名	年度別学級数					備考
		13	14	15	16	17	
佐渡	普通	6	6	6	*		
佐渡・佐渡女子	普通				6	6	平成16年度佐渡と佐渡女子の統合
羽茂	普通	3	2	3	3	3	
赤泊分校	普通	1	1	1	1	*	平成17年度募集停止
佐渡女子	普通	2	2	2	*		
両津	普通	3	3	3	3	3	
相川	普通	2	2	2	2	2	
佐渡総合	総合	3	3	3	3	3	
計		20	19	20	18	17	

おわりに

今日の社会は、少子化が進む中で、情報化や国際化の進展、科学技術の発展、更には、人々の価値観の多様化などにより急激に変化しております。

こうした状況の中で、高等学校は、多様な生徒が入学する国民的教育機関となっており、今後、社会の変化や生徒の個性化、多様化に適切に対応するとともに、先行き不透明な21世紀をたくましく生きる人材の育成が求められ、これまでの画一的な教育から、一人一人のニーズに合う学習内容の多様化や制度の弾力化など高校改革が進められております。

本県でも、平成4年度の国際情報高校の新設から、総合学科高校、単位制高校、また、体育科や福祉科、理数科や音楽科などの特色ある学科の新設や中高一貫教育の導入など、特色ある学校づくりに努めてきたところであります。

高校改革が進み、中学校卒業生徒数が今後も長期的に減少するなど、高校教育を取り巻く環境が急速に変わりつつある中で、中学校関係者や保護者から、進路指導や将来の高等学校選択のために、今後の高等学校の各学科の在り方について、中長期的に示してほしいという強い要望があり、教育委員会では、今後3年間は、学校・学科名を明記して、それ以降10年先までは、学校名を示さずに、学校・学科の再編整備及び募集学級数の計画案を作成し、ここに「中長期高校再編整備計画」としてまとめたところであります。

今後は、この整備計画に基づき、生徒・保護者の期待に応えるため、より一層、生徒一人一人の自己実現を可能とする特色ある高校づくりを推進していくこととしております。

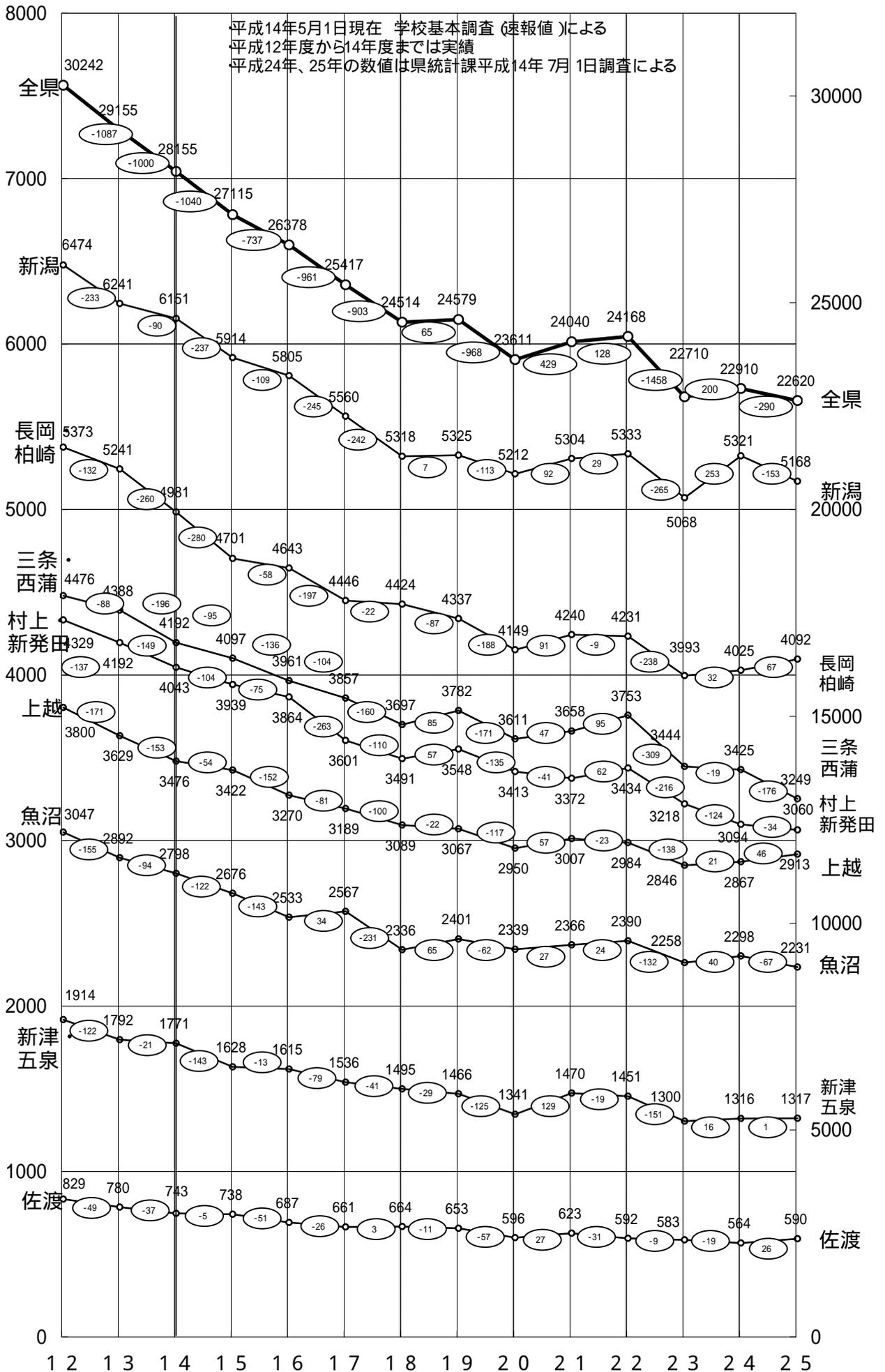
そのためには、生徒数の減少を単に学校の統廃合に結びつけるのではなく、教育の質的充実の好機としてとらえて、適切な学習環境を整えていく財政措置が必要となります。また、魅力ある学校づくりを進めるに当たっては、教職員が、生徒や保護者の願いを真摯に受け止め、使命感と情熱をもって日々の教育活動に取り組むなど、教職員の意識改革や指導力の向上が必要であります。

最後に、計画推進に当たっては、何よりも県民各界各層の方々のご理解とご協力が不可欠であります。現在の高校教育を取り巻く現状と課題や高校再編整備の必要性をご理解の上、一層のご協力をお願いするものであります。

資料編

1	中学校卒業生徒数の推移（平成12年～平成25年）	44
2	高等学校数等の推移	45
3	これまでの本県高校整備の状況	46
4	公立全日制高校卒業後の進路状況の推移	49
5	中学生等への進路に関する希望調査	50
6	公立高等学校中途退学率の推移	51
7	新潟県公立中高一貫教育検討委員会の報告（抄）	52
8	新潟県工業教育の在り方検討委員会の報告（抄）	55
9	中長期高校再編整備計画骨子案についての アンケート調査結果と聴取意見	57
10	現在の8通学区域	71

1 中学校卒業生徒数の推移 (平成12年～平成25年)



2 高等学校数等の推移

区分	学校数	公立				課程別			中学校 卒業 生徒数	高等学校 進学率	大学等 進学率	
		計	県立	市立	私立	全日制	定時制	併置				
昭和	23	142										
	24	152										
	25	147										
	26	153										
	27	155										
28	157	145			12	21	90	46		39.0	17.5	
29	158	146			12	21	91	46		41.1	14.9	
30	162	150			12	20	93	49	52,655	41.9	13.9	
31	161	148			13	21	91	49	56,262	41.5	15.9	
32	161	148			13	21	91	49	60,261	41.1	12.4	
33	163	149			14	25	91	47	54,895	43.8	12.9	
34	162	148			14	27	90	45	58,523	45.0	12.7	
35	161	147			14	31	88	42	49,936	47.5	12.2	
36	160	147			13	32	85	43	39,738	52.2	13.1	
37	164	150			14	36	82	46	56,568	55.1	14.2	
38	167	154			13	41	78	48	70,499	59.0	14.1	
39	168	155	150	5	13	45	75	48	68,090	62.2	16.1	
40	169	156	150	6	13	43	76	50	69,447	64.5	17.1	
41	167	154	148	6	13	44	74	49	61,894	67.2	17.1	
42	166	154	148	6	12	44	71	51	56,867	69.4	16.5	
43	168	155	149	6	13	46	68	54	54,541	71.1	15.2	
44	168	155	149	6	13	51	68	49	50,231	74.8	16.1	
45	165	152	146	6	13	57	64	44	48,728	77.1	14.9	
46	164	151	145	6	13	61	62	41	45,434	80.3	15.8	
47	163	150	144	6	13	61	61	41	42,729	83.2	16.4	
48	161	148	143	5	13	64	52	45	40,279	86.5	18.2	
49	156	143	138	5	13	68	40	48	41,394	88.6	20.0	
50	156	143	138	5	13	70	36	50	38,333	90.9	20.0	
51	152	139	134	5	13	78	32	42	37,532	92.8	21.3	
52	151	138	133	5	13	84	30	37	35,910	94.0	21.4	
53	148	135	130	5	13	86	27	35	36,069	94.4	21.2	
54	141	128	124	4	13	90	20	31	36,100	94.1	20.9	
55	142	129	124	5	13	96	18	28	37,488	94.3	20.1	
56	139	126	121	5	13	100	15	24	34,821	95.2	20.0	
57	134	121	118	3	13	105	13	16	33,216	95.4	19.5	
58	136	122	119	3	14	108	13	15	38,468	95.0	19.0	
59	136	121	118	3	15	110	12	14	37,325	95.1	18.5	
60	136	121	118	3	15	111	12	13	36,665	95.1	19.0	
61	135	120	117	3	15	111	11	13	36,724	95.2	18.1	
62	132	117	114	3	15	110	9	13	37,531	95.8	18.9	
平成	63	131	116	113	3	15	109	9	13	38,548	96.0	19.3
	元	130	115	112	3	15	110	8	12	39,129	95.6	19.4
	2	129	114	111	3	15	110	7	12	38,644	94.9	20.0
	3	128	113	110	3	15	110	6	12	37,588	94.8	21.6
	4	129	114	111	3	15	111	6	12	36,573	95.3	22.9
5	129	114	111	3	15	111	6	12	35,724	96.2	24.5	
6	128	113	110	3	15	110	6	12	34,602	96.5	26.3	
7	127	112	109	3	15	110	5	12	34,184	96.5	27.8	
8	127	112	109	3	15	110	5	12	32,230	97.0	29.2	
9	127	112	109	3	15	110	5	12	31,208	97.3	31.5	
10	127	112	109	3	15	110	5	12	30,702	97.3	33.8	
11	127	112	109	3	15	111	5	11	31,105	97.7	35.5	
12	127	112	109	3	15	114	5	8	30,242	97.7	36.1	
13	127	112	109	3	15	114	5	8	29,155	98.0	36.4	
14	126	111	108	3	15	112	5	9	28,155	98.3	37.1	

資料：学校基本調査報告書

資料 文部省 「学校基本調査報告書」昭和28年以降

文部省 「日本の教育統計」昭和23～27年

注) 通信制課程を除く。

3 これまでの本県高校整備の状況

1 中高一貫教育校の設置

年 度	校 名	設置形態	学級数	備 考
平成14年	村上中等教育学校	中等教育学校	2	学校の新設
	阿賀黎明中学校・高等学校	併設型	1	学校の新設
平成15年	柏崎翔洋中等教育学校	中等教育学校	2	学校の新設

2 その他専門学科（特色ある学科）の設置

年 度	学 科 名	方法	校 名	学級数	備 考
平成4年	国際文化科	新設	国際情報	2	学校の新設
	情報科学科			2	
平成5年	英 語 科	転換	中 条	1	被服科1学級を転換
平成6年	英 語 科	転換	中 条	1	普通科1学級を転換
平成7年	理 数 科	転換	新 潟	1	普通科1学級を転換
	理 数 科	転換	長 岡	1	普通科1学級を転換
	理 数 科	転換	高 田	1	普通科1学級を転換
	体 育 科	改組	八 海	1	普通科3、家庭科1を体育科、福祉科各1学級、普通科2学級に改組。六日町女子の校名変更
	福 祉 科			1	
	国際教養科	転換	三条商業	2	商業科2学級を転換
	国際教養科	転換	柏崎商業	2	商業科2学級を転換
平成8年	理 数 科	転換	新 発 田	1	普通科1学級を転換
	国際教養科	転換	新潟商業	2	商業科2学級を転換
平成9年	音 楽 科	転換	新潟中央	1	普通科1学級を転換

3 総合学科の設置

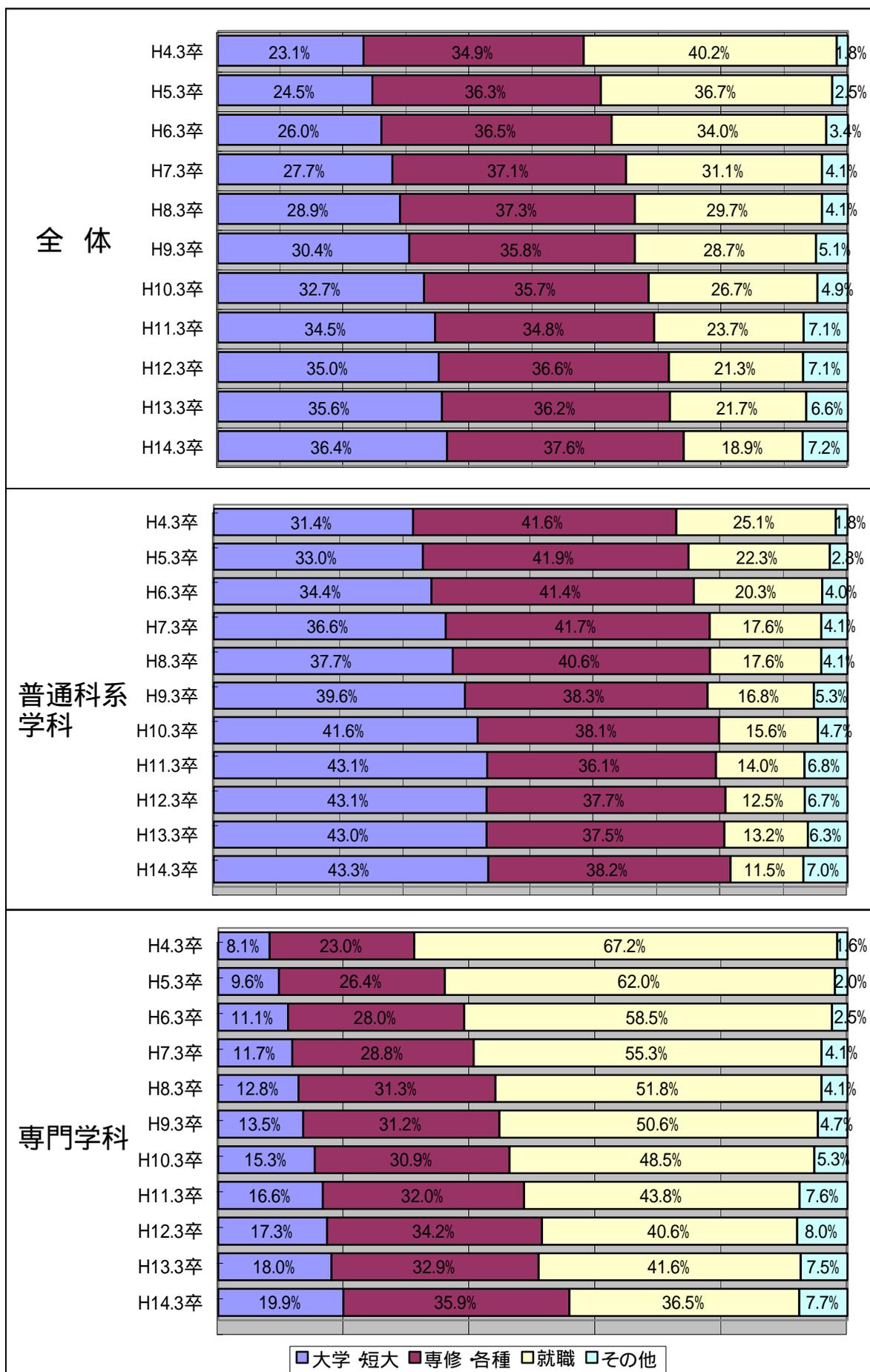
年 度	学 科 名	方 法	校 名	学 級 数	備 考
平成 7 年	総合学科	改組	十日町総合	5	農業 1、色染 1、繊維 1、家政 1、 被服 1、計 5 学級を改組 十日町実業の校名変更
平成 8 年	総合学科	改組	新 井	6	普通科 5、工業化学科 1、商業科 1、計 7 学級を改組
平成 9 年	総合学科	改組	栃 尾	7	普通科 4、繊維工学科 1、商業科 1、被服科 1、計 7 学級を改組
平成10年	総合学科	改組	糸魚川白嶺	5	工業化学科 2、商業科 3、情報経 理科 1、計 6 学級を改組。 糸魚川商工の校名変更
平成13年	総合学科	統合	佐渡総合	3	佐渡農業（農業科 1、園芸科 1） 両 津（商業科 1、情報経理科 1） 相 川（電気科 1） 計 5 学級を統合 佐渡農業の校名変更
		改組	村上桜ヶ丘	6	農業科 1、林業科 1、農業経済科 1、商業科 3、情報経理科 1、計 7 学級を改組
平成14年	総合学科	統合	柏崎総合	6	柏崎農業（農業科 1、食品科学科 1、農業経済科 1） 柏崎商業（商業科 2、情報経理科 1、国際教養科 2） 柏崎常盤（被服科 1） 計 9 学級を統合 柏崎農業の校名変更
	総合学科	改組	小千谷西	5	普通科 4、家政科 1、計 5 学級を 改組
平成15年	総合学科	統合	巻 総 合	5	巻農業（農業科 1、園芸科 1、造 園科 1、食品流通科 1） 巻工業（電気科 1、電子科 1） 計 6 学級を統合 巻農業の校名変更

4 単位制高校の設置

年 度	校 名	方法	校 名	学級数	備 考
平成 6 年	単位制高校	改組	高田南城	2	学年制夜間定時制 1 学級を改組
平成 9 年	単位制高校	改組	長岡明德	4	学年制夜間定時制 1 学級を改組。長岡西の校名変更
平成10年	単位制高校	改組	市立明鏡	4	学年制夜間定時制 4 学級を改組。
平成13年	単位制高校	改組	荒 川	3	全日制 2 学級を改組
平成14年	単位制高校	改組	出 雲 崎	2	全日制 2 学級を改組 西越の校名変更

4 公立全日制高校卒業後の進路状況の推移

(大学等進学状況調査)



5 中学生等への進路に関する希望調査

(1) 中学3年生の進路に関する調査

各年度5月に調査を実施（生徒全員）
県内公立全日制高校への希望状況

< 生徒 >

	普通科系			計	専門学科	計
	普通科	その他専門学科	総合学科			
平成9年5月	71.7	3.5	2.4	77.6	22.4	100.0
平成10年5月	71.9	3.3	3.0	78.1	21.9	100.0
平成11年5月	70.7	3.3	3.2	77.2	22.8	100.0
平成12年5月	70.5	3.3	3.4	77.2	22.8	100.0
平成13年5月	71.2	3.4	5.2	79.8	20.2	100.0
平成14年5月	73.6	3.1	6.1	82.8	17.2	100.0

(2) 中学2年生の「中学卒業後の進路に関する調査」

各年度2月に調査を実施（生徒全員、保護者1/4を対象）
県内公立全日制高校への希望状況

< 生徒 >

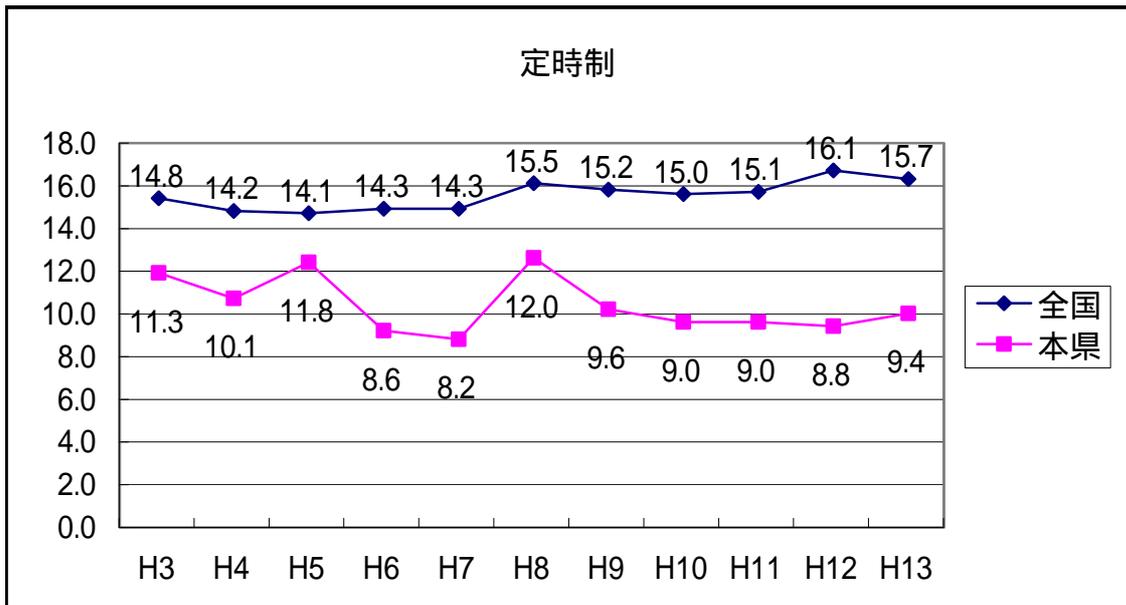
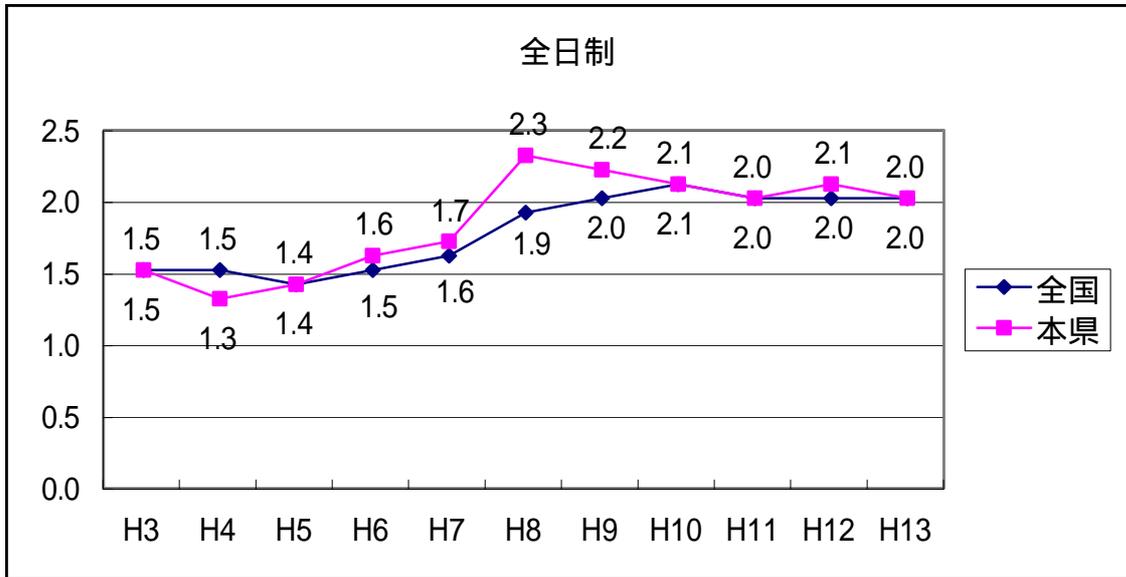
	普通科系			計	専門学科	計
	普通科	その他専門学科	総合学科			
平成9年2月	64.3	6.5	3.2	74.0	26.0	100.0
平成10年2月	63.9	6.4	3.8	74.1	25.9	100.0
平成11年2月	62.1	6.7	4.4	73.1	26.8	100.0
平成12年2月	61.3	6.3	5.8	73.5	26.5	100.0
平成13年2月	63.8	6.3	5.1	75.1	24.9	100.0
平成14年2月	66.8	6.4	6.1	79.3	20.7	100.0

< 保護者 >

	普通科系			計	専門学科	計
	普通科	その他専門学科	総合学科			
	20.7	20.7	20.7			
平成9年2月	68.6	3.7	6.7	79.0	21.0	100.0
平成10年2月	67.3	3.6	8.0	78.8	21.2	100.0
平成11年2月	66.5	3.6	8.3	78.4	21.6	100.0
平成12年2月	57.6	3.5	19.3	80.4	19.6	100.0
平成13年2月	67.3	3.5	9.4	80.1	19.9	100.0
平成14年2月	67.6	10.4	3.4	81.5	18.5	100.0

6 公立高等学校中途退学率の推移

〔文部科学省調査
平成13年度については速報値〕



7 新潟県公立中高一貫教育検討委員会の報告(抄) (平成11年3月17日)

公立中高一貫教育導入の在り方

1 公立中高一貫教育の導入

- (1) 中高一貫教育は、6年間一貫した一体的な教育により、ゆとりある学校生活の中で一人一人の生徒の個性や能力の伸長を図ることを目指すものであり、現在の中等教育が抱える課題等を解決する上でも有意義なことから、本県においても、公立学校に可能な限り早期に導入することが適当である。

<中高一貫教育の利点>

ア 高校入試に影響されることなく、中高一貫した計画的・継続的な教育を行うことから、ゆとりの中で、より一層個性の伸長や人間形成が期待できること

イ 全ての教員が、中高一貫した教育理念のもとで、中高6年間で計画的・継続的に指導することから、一人一人の生徒の成長や個性、特性の伸長を図ることができること

ウ 多感な中学生、高校生が、6年間の一貫した学校生活の中で、交流を深めることが期待できることから、社会性や協調性等を身に付けることができること

<現行の中学校、高等学校に区分された教育の利点>

ア 中学校で学習しながら、自己の希望や目標がはっきりした時点で、卒業して社会に出ることも、また、多様な学校・学科の中から、自らの能力・適性、興味・関心等に応じて最もふさわしい高等学校等を選択できること

イ 高等学校に入学して、新しい出会いの中で、気持ちを新たにして学習や部活動など学校生活にチャレンジできること

ウ 中学校、高等学校のそれぞれの学校生活の場で、多くの人たちとの幅広い交流を通して、人間的成長ができること

- (2) 中高一貫教育の導入は、子どもたちや保護者が、現行の中学校・高等学校に区分された教育に加えて、中高一貫教育をも選択できるようにして、子どもたちや保護者の選択の幅を広げ、中等教育を一部複線化するものである。

このため、導入に当たっては、中高一貫教育と現行制度の教育との両立を図りながら、教育の機会均等の観点から、本県のどの地域の子どもたちにとっても、中高一貫教育を受ける機会が、通学範囲に確保される必要がある。なお、通学範囲については、中学生の発達段階では、家庭の役割が極めて重要であることに配慮する必要がある。

- (3) 中高一貫教育の導入に当たっては、受験競争の低年齢化等の問題点も指摘されることから、実施に当たっては、このような事態を招かないよう十分配慮する必要がある。

<中高一貫教育導入に当たって考えられる問題点>

ア 中高一貫校が、中高一貫教育本来のねらいを外れ、いわゆる受験エリート校化するおそれがあること

イ 中高一貫校の設置校数が極めて少ない場合には、受験戦争激化やそれに伴う受験競争の低年齢化を招くおそれがあること

ウ 子どもたちや保護者は、小学校卒業段階で中高一貫校か、現行の中学校かを選択することになるが、中高一貫教育のねらいや現行制度との違いが十分理解されない場合には、適切な選択がなされないおそれがあること

エ 高校入試もなく、6年間固定されたメンバーとなるため、人間関係の固定化やマンネリ化による中だるみに陥ることが心配されること等

2 公立中高一貫校の設置

中高一貫教育には、下記の3つの形態が示されている。

中等教育学校

一つの学校として、6年間一体的、に中高一貫教育を行うもの

同一の設置者による中学校と高等学校の併設型

中等教育学校よりも緩やかな設置形態であり、高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続して、中高一貫教育を行うもの

中学校と高等学校の連携型

既存の市町村立中学校と県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施するもの

これらのうち、中高一貫教育の趣旨をより十分に生かすには、中等教育学校、または併設型中学校・高等学校が望ましいと考えられる。

しかし、平成10年度の本県高等学校等進学率が97.3%に達していることから、多くの子どもたちに中高一貫教育を提供するために地域によっては、中学校と高等学校が、6年間を連携して教育を行う連携型を導入することも意義がある。

3 公立中高一貫校の教育課程の編成

(1) ゆとりある学校生活の中で、生徒一人一人の個性や能力を伸長するとともに、大学進学をはじめ、生徒の進路希望の達成など自己実現を図ることができるよう、さらにはマンネリ化による中だるみを起こさないよう配慮した教育課程を編成する必要がある。

(2) 中学校段階では、中高一貫校であっても、国民としての基礎・基本を身に付けさせるという義務教育の理念を踏まえた上で、中高一貫教育の利点を最大限生かし、それぞれの発達段階に応じたバランスのとれた特色ある教育課程を編成することが望ましい。

なお、芸術やスポーツなど中学校段階からの教育の意義が大きいとされている分野については、中学校段階から重点的に教育できるようにすることも必要である。

4 公立中高一貫校の入学者選抜

- (1) 入学者選抜に当たっては、学力試験は行わず、面接や作文等を適切に組み合わせるなど、6年間の学校生活と学校の特色に合う児童を選抜できるよう工夫する必要がある。
- (2) 面接や作文等においては、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら課題を解決していく資質や能力等の観点に立った学力が評価できるよう十分工夫する必要がある。
- (3) 入学者の選抜において、調査書を使用する場合であっても、小学生が、日頃の学校生活の中で、調査書の評価を気にするような事態を招かないよう、その評価の仕方や活用には、十分工夫する必要がある。

5 公立中高一貫校設置に当たっての配慮事項

- (1) 中高一貫教育の導入は、ゆとりの中で個性や能力の伸長を図るという趣旨であり、中高一貫校のいわゆる受験エリート校化や受験競争の低年齢化を招かないよう、入学者選抜方法や配置及び教育課程の編成等に十分配慮する必要がある。
- (2) 子どもたちや保護者が、現行の中学校、高等学校に区分された教育と中高一貫教育の相違点等について理解を深め、現行の中学校と中高一貫校の中から、子どもたちに合った学校を適切に選択できるよう、子どもたちや保護者、教職員等に十分な情報提供を行うなど、啓発活動が必要である。
- (3) 中高一貫校に入学した生徒が、様々な事情等により、現行の中学校や高等学校に移動を希望する場合には、必要に応じて、市町村の枠を越えた転校など、子どもの状況に配慮した弾力的な制度の運用が必要である。
- (4) 中高一貫校の学校規模については、現行の中学校と高等学校に区分された教育を受けることを希望する子どもたちに、現在の中学校、高等学校の教育を受ける機会を確保することを前提に設定する必要がある。
- (5) 中高一貫校の設置に当たっては、中高一貫教育実施の趣旨が達成できるよう、施設設備や教職員等について十分配慮する必要がある。

8 新潟県工業教育の在り方検討委員会の報告（抄）

（平成13年3月）

1 工業高校の適正配置とそれぞれの高校の学科構成等について

- (1) 「今後の本県高校整備の方向について」において、工業高校を下越、新潟・新津、県央、長岡・魚沼、柏崎、上越の各地区に概ね7校程度に再編・整備するとしている方向は妥当と考える。
- (2) 学科構成については、どの学校においても工業教育としての基礎的・基本的な学科に加えて、地域の産業界が必要とする地域産業を支えている知識・技術を教育する学科やコース等を設置するとともに、どの工業高校においても情報教育に特別に配慮した整備が必要である。
- (3) 学科の壁を取り払って、入学後、全員が共通に基礎的な科目を履修した後、生徒が自らの将来の職業希望や興味・関心、適性等に基づいて、学科やコース、履修科目を選択できるシステム(くくり募集)についても検討する必要がある。なお、将来、工業高校と農業高校の統合なども考えられるという意見もあった。
- (4) それぞれの地区の今後の具体的な再編・整備の在り方について
 - ア 下越地区
新発田南高校と中条工業高校を統合して、機械系、電気系、建築系、土木系や情報系の学習ができるようにすることが望ましい。
 - イ 新潟・新津地区
県立の工業高校としては、新潟工業高校1校とし、機械系、電気系、建築系、土木系及び化学系の学科が必要である。
また、総合学科の整備に当たって工業系についても学習できるように十分配慮することが望ましい。
 - ウ 県央地区
三条工業高校と燕工業高校を1校に統合し、再編・整備することが望ましいが、その際、機械系、電気系、建設系に加えて、塑性加工技術や金属材料に関する学習ができるようにすることが必要である。
 - エ 長岡・魚沼地区
長岡工業高校を一層整備充実させることが望ましいが、学科の壁が厚すぎ、工業教育のシステムとして、硬直していると考えられることから、学校の体制を刷新する必要がある。
塩沢商工高校については当面現状のままとするが、機械系の学科においても、電気系の学習もできるようにすることが望ましい。

オ 柏崎地区

柏崎工業高校を一層整備充実させることが望ましいが、学科の壁が厚すぎ、工業教育のシステムとして硬直していると考えられることから、学校の体制を刷新する必要がある。

カ 上越地区

高田工業高校と直江津工業高校を統合して1校とすることが望ましい。統合校には、機械系、電気・情報系、建築系、土木系、デザイン系の学科を整備するとともに、化学系の学習も必要であることから、その学習機会や内容についても、今後検討する必要がある。

2 工業教育の改善について

(1) 基礎学力の定着と実験・実習の重視

工業高校生として必要な基礎的学力を定着させるとともに、実験・実習を重視した教育を行うことが重要である。このことは、生徒が企業等での実経験や研修を通じて先端的・専門的な知識と技術を身に付ける上で必要なことである。

(2) 地域産業との交流の重視

工業高校の施設・設備を、常に時代の進展に合わせて更新していくことは難しいことであり、また、教員のみで最新の技術に対応した教育を行うことも難しいことである。今後は、地域の企業・大学等との連携を深め、先端的な施設設備、機器に触れる機会を設ける必要がある。

また、地域の企業などから講師を招くなどして工業教育の質を高めるとともに、インターンシップを充実させる必要がある。

(3) 社会人としての資質の重視

学力や技術を身につけることは当然のことであるが、社会人・企業人として要求される社会常識、マナーを身につけさせる教育を重視する。

3 工業教員の資質・指導力の向上のための取り組みについて

日進月歩している産業社会に対応するためには、教員も新しい知識・技術の習得に努める必要がある。このことは、生徒にインセンティブのある教育を行う上でも最も重要なことである。

今後、教員が時代の進展に対応した教育を行うため、大学・企業における研修機会の確保に努める必要がある。

9 中長期高校再編整備計画骨子案についての
アンケート調査結果と聴取意見

- 1 アンケート調査結果
- 2 高校再編整備計画について意見を聴く会

(参考資料) アンケート調査

本年3月に公表した中長期高校再編整備計画骨子案について、成案にまとめるため、教育関係者や市町村関係者等にアンケート調査を行うとともに、各学区ごとに意見を聴く会を開催するなどして広く意見を聴取した。

1 アンケート調査結果

「中長期高校再編整備計画骨子案」を市町村長、市町村教育長、小・中・高校長、小・中・高PTA連合会役員、職員団体、有識者に送付し、記名記述式によるアンケート形式で意見を聴取した。(1,040人回収、回収率80%)

(1) 高校再編整備の必要性について

生徒の多様化や社会の進展、人々の価値観の多様化に伴って、生徒・保護者の教育に対するニーズも変化するとともに、今後も少子化傾向が続くことから、高校の再編整備の必要性については、概ね賛同を得たと考えている。

[主な意見]

- ・ 時代の方向を見つめ、生徒のニーズを敏感に察知し、学校規模の適正化、生徒の多様化に対応してほしい。
- ・ 生徒は多少遠距離でも学力の高い高校へ進学したいと願って志望するのが現状である。教育力の維持を優先した再編策をお願いしたい。
- ・ 生徒数が減少することは知っていたが、これほど減少するとは思わなかった。高校教育の在り方を考えていかなければならない。
- ・ 全県的視野に立った再編整備は必要と思うが、分校の募集停止や統合の際には、通学に伴う経済的負担も考慮してほしい。
- ・ 県内の地域事情によって異なる減少の状況を確実に把握しながら、再編整備の在り方を探っていくべきである。

(2) 高校の特色化について

これまで総合学科の設置など高校改革を進めてきたこともあり、特色化を進めるべきであるという意見、特に普通科の特色化を求める要望が多くあった。

[主な意見]

- ・ 各学校が特色化を強めること、特に普通科に特色を持たせることは、賛成である。その際、多様な学習ニーズに応えるものにしてほしい。
- ・ 専門高校・学科は、県内各地の産業界などの特色を生かし、時代的背景も

考慮しながら特色化を進める必要がある。

- ・ 普通科の特色化を図る必要があるが、進路希望の実現、大学進学希望の実現を目指して考える必要がある。
- ・ 税金でまかなう公立高校は、地域によって教育内容に差があってはならないので、特色化を図る必要はない。
- ・ 各学校の特色化には賛成であるが、特色をもたせるからには、生徒がその特色を自由に選択できるように、普通科であっても、学区の枠を取り払うべきである。

(3) 学校の統廃合や学科の再編について

学校の統廃合等については、その必要性を認めながらも、統合の際には生徒の通学に配慮すべきである、また、地域によっては、必要に応じて小規模校でも存続させる必要があるなどの意見があった。

[主な意見]

- ・ 交通アクセスも整備されており、統合はやむを得ないことと思う。
- ・ 統合による適正な学級規模は堅持すべきかと思うが、中山間地や離島などにおいて通学条件が極端に悪くなる生徒への十分な配慮が必要である。
- ・ 山間豪雪地においては、統廃合は切実な問題であり、小規模校化によるマイナス要素よりは、学校がなくなることの影響がはるかに大きいので、一律の基準ではなく、地域性を考慮して行うべきである。
- ・ 高校の統廃合は、早めに具体的な内容とその理由について県民に示し、理解を求める必要がある。

(4) 特色ある学校・学科の設置について

専門高校

社会状況や生徒のニーズの変化に対応して、統合再編もやむを得ないが、施設設備を含めて、教育内容の充実を図る必要があるとの意見が多かった。

[主な意見]

- ・ 生徒のニーズが変化し、職業高校への志望が減少している現在、専門高校の統合を進め、一定の規模を保ち多様な学科を配置し、選択幅を広げるとともに、施設設備を時代に合ったものに整備する必要がある。
- ・ 専門高校の配置については、それぞれの地域の特性を生かして配置し、地域産業と学校が一体となってスペシャリストを育成し、同時に地域の活性化

を図るべきである。

- ・ 高卒者への求人が減少している現在、専門高校での知識や技術を大学などへ接続、発展できるようにしてほしい。

総合学科高校

総合学科の教育を受ける機会を保障する観点から、早期に全県に配置すべきという意見が多かった。

[主な意見]

- ・ 高校進学段階で、明快な将来の進路が決まっていない中学生が比較的多いことから、多様な選択肢を用意している総合学科への希望は増加すると考えられるので、生徒が通学できる範囲に是非1校は設置すべきである。
- ・ 総合学科の増設には大いに賛成であるが、施設・設備の充実にも努めるべきである。
- ・ 職業学科の統合による総合学科の設置だけでなく、普通科を転換した総合学科も検討すべきである。

単位制高校

多様な学習歴を持つ生徒の学習の場として期待できるという意見が大半であったが、定時制であることに対する社会の評価を懸念する意見もあった。

[主な意見]

- ・ 生徒の学習へのニーズへの対応、生涯学習の推進、主体性の育成の観点から大いに賛成である。将来の職業選択への幅広い可能性が開ける選択履修の実現を望む。
- ・ 様々な事情により、多様な学習歴を有する生徒が増加しつつあり、こうした生徒の教育の場として必要である。
- ・ 不登校や中退者の受け皿としての役割も果たしており、評価できるが、昼間部とはいえ定時制高校であることを社会がどのように評価していくかが課題である。

中高一貫教育校

設置を進めてほしいとしながらも、「受験エリート校化」や「既存中学校との学力差」を懸念する意見があった。なお、中学校長からは設置に慎重な意見が多くあった。

[主な意見]

- ・ 併設型や連携型ではなく、目標をしっかりとった中等教育学校を各学区内の交通アクセスに配慮した場所に設置し、できるだけ多くの生徒に機会が与えられることが望ましい。
- ・ 6年間一貫した方針でゆとりを持って学ぶことができることや既存の中学校に刺激を与える意味でも、設置を進めるべきである。
- ・ 導入する意義にそって設置されれば、個性の伸長や豊かな人間性の育成等、計画的・継続的にゆとりを持って取り組むことができるが、「受験競争の低年齢化」や「受験エリート校化」が課題である。

(5) その他

その他、以下のような意見があった。

- ・ 少子化に対し、学校、学科の統合ではなく、35人学級など1学級あたりの募集定員を下げることで対応する必要がある。
- ・ 高校再編整備計画の推進に当たっては、地域住民との話し合いをよく行い、合意が得られるようにしてほしい。
- ・ 市町村合併の動きが急速に進んでおり、その動向も視野に入れて進めてほしい。
- ・ 再編整備とともに、教員の資質・能力の向上が必須である。

2 高校再編整備計画について意見を聴く会

各学区ごとには、市町村長や市町村教育長、保護者、一般公募による意見発表という形式で、また、全県対象には、町村会、経済界、保護者、中学校長等によるパネルディスカッション形式で広く意見を聴取した。

地 区	実施日	会 場	発表者	参加者
三 条 西 蒲	5月20日(月)	巻町公民館	5人	220人
新 津 五 泉	5月21日(火)	五泉総合会館	5人	130人
長 岡 柏 崎	5月26日(日)	長岡造形大学	6人	220人
新 潟 湯 湯	5月27日(月)	黒埼農村改善センター	6人	80人
佐 渡 渡	6月 1日(土)	金井町町民会館	6人	300人
新 発 田 村 上	6月 5日(水)	新発田生涯学習センター	6人	100人
魚 沼 沼	6月 6日(木)	六日町文化会館	5人	160人
上 越 越	6月 8日(日)	上越教育大学	6人	150人
全 県 対 象	6月16日(日)	だいしホール (6人によるパネルディスカッション)		180人

(1) 現状と課題、再編整備の必要性について

生徒の多様化や現状と課題について言及する意見とともに、生徒の多様化や社会の変化に対応した高校の再編整備は必要であるという意見やその際、小規模校であっても必要に応じて存続させてほしいという要望などがあった。

[主な意見]

- ・ 生徒の多様化というが、具体的にどう多様化しているかについて、中学生の進路希望調査結果や各高校の現状等に基づき具体的に示す必要がある。
- ・ 生徒の多様化の一つとして、高校進学率が98パーセントに達し、勉強する子どもとしない子どもに二極化しているのではないか。
- ・ 社会や時代の変化に伴い、生徒と保護者の高校進学に対する考え方が大きく変化しているので、ニーズに合わせた対応は必要である。
- ・ 生徒、保護者ともに、地元の高校より都市部の高校に進学したいという傾向がある。
- ・ 高校の再編整備に当たっては、生徒の通学や地域の実情に配慮するとともに、各高校の特色化を進める必要がある。
- ・ 再編整備の必要性はよく分かったが、統合という解決策だけではなく、大規模校も小規模校もあるという中での選択肢を残してほしい。

(2) 再編整備計画の理念について

開かれた学校づくりや社会人としての一般常識やマナー、望ましい職業観の育成などを求める意見があった。

[主な意見]

- ・ これらの理念に基づき、高校改革を進め、よりよき教育の実現を目指してほしい。
- ・ 今後は、学校評議員制度などを活用して、開かれた学校づくりにも努める必要があることから、そうした観点も書き込んでほしい。
- ・ 学力向上とともに、忍耐力の育成やマナーの向上といった基礎的な人間としての生きる力の育成に力を入れるべきである。

(3) 再編整備計画策定の基本的考え方について

再編整備の基本的な考え方については、概ね賛同を得たと考えているが、それぞれに対して配慮を求める意見や要望等があった。

[主な意見]

普通科と職業科の定員比率の適正化

- ・ 生徒のニーズを考えると、必要に応じて専門高校や普通科に併設の職業学科の普通科系学科への転換は、急務である。
- ・ 生徒のニーズに合わせるだけでなく、教育委員会としての高校教育のビジョンと理念に基づき再編整備を進めてほしい。
- ・ 生徒の普通科志向とはいえ、今回の再編整備計画は、単なる専門高校の縮小とも受け取れる。

生徒のニーズ等を反映した学科・コースの再編整備

- ・ 英語科や理数科、音楽科や美術科、福祉科など特色ある学科を全県的に配置してほしい。
- ・ 将来に対するモラトリアムとしての普通科志望が多いと思われるので、普通科にも自分の適性を探し、生かすことができるコースや類型を設置するなど、工夫してほしい。

学校規模の適正化

- ・ 生徒のニーズや少子化に対応するとともに、教育内容の充実を図るためには、学校の統合もやむを得ないが、中山間地など地域の事情を踏まえて、必

要に応じて分校等の小規模校でも存続させてほしい。また、統廃合する場合には、生徒の通学や必要経費を考慮してほしい。

- ・ 確かな学力を身に付けるとともに、豊かな人間性と個性を伸ばすためにも、学校の統合や再編のほかに、学級定員を減らすことを考える必要がある。

学区完結型の再編整備

- ・ 通学の経済的負担を考慮し、学区完結型の再編整備を進めてほしい。

普通科の特色化

- ・ 商業、工業、農業高校等は、それ自体が特色をもっているが、普通科は特色がないので、普通科高校にも特色あるコースを設置するなどして、魅力あるものにする必要がある。
- ・ 大学進学希望の実現を図ることができる普通科にしてほしい。
- ・ 学力の低下がいわれているが、普通科高校をつくっても普通科のカリキュラム、授業についていけない生徒が増えるばかりであり、問題である。

(4) 学校・学科の在り方について

普通科には学力向上を期待するとともに特色化を求める意見があった。

専門高校の統合や学科の再編成については、基本的な方向について特段の反対はなかったが、同窓会などの学校関係者等から、定員割れがないことなどを理由に個別の学校・学科の存続を求める意見や、母校がなくなるのは寂しいが、学校はこれからの子どもたちや保護者のためにあるのだから、そのニーズに合わせての統合や再編はやむを得ないという意見があった。

総合学科、単位制高校については、評価されており、早期に整備してほしいという要望があった。

中高一貫教育校について、今年度スタートした2校に関心もあり、期待する意見が多かった。

[主な意見]

普通科及びその他の専門学科を設置する高校

- ・ 入学した高校により、入れる大学が決まってしまうような風潮であるが、普通科の均一化、レベルアップを図ってほしい。
- ・ 難関国立大学進学を目指して、特化した英数科の設置を望む。
- ・ 普通科であっても、職業系の学習ができるよう、コースの導入など検討していく必要がある。

総合学科を設置する高校について

- ・ 高校選択時に将来の進路が決まっている中学生が少ないことから、総合学科の人気は高いので、未設置の地域には早期に整備すべきである。その際、多様な系列を設置し、生徒のニーズに応える必要がある。
- ・ 総合学科は職業学科の代替とはなり得ないので、専門教育を総合学科に託すのは危険である。

農業、工業、商業、水産、家庭の学科を設置する専門高校について

- ・ 生徒や保護者の希望が普通科傾向にあることから、専門高校の統合・再編は理解できる。進路保障などより質の高い教育が提供できるよう整備する必要がある。
- ・ 専門高校の配置については、それぞれの地域の特性にそって配置し、地域産業と学校が一体となってスペシャリストの育成に努めるべきである。
- ・ 地域の産業を勘案しながら、より時代の進展にあった職業教育を推し進めてほしい。また、将来のスペシャリストの育成や継続教育の観点から大学進学にも力を入れるべきである。
- ・ 普通科志向とはいえ、志願者が多く、定員割れもしていない職業学科を普通科に転換する必要はない。

単位制高校について

- ・ 進路希望や興味関心に基づいて、自分のペースで学習できる単位制高校に魅力を感じて入学する生徒が増加していることから、全県的に整備を急ぐ必要がある。また、その際には、勤労青少年のために夜間部も設置してほしい。
- ・ 定時制高校の募集停止も計画に入っているが、早急に単位制高校を生徒の通学に配慮しながら、各地域に設置してほしい。
- ・ 単位制高校は将来性があるので期待するが、単位制高校という名称は止めるべきである。

中高一貫教育校について

- ・ 中学校と高校の併設型より、分かりやすい中等教育学校をできるだけ早く、学区内の交通アクセスのよい場所に設置し、多くの生徒に機会が与えられることが望ましい。
- ・ 中高一貫については初めてスタートしたので、3年くらいの様子を見てから考えたほうがよいと思う。

(5) その他

その他として、以下のような意見があった。

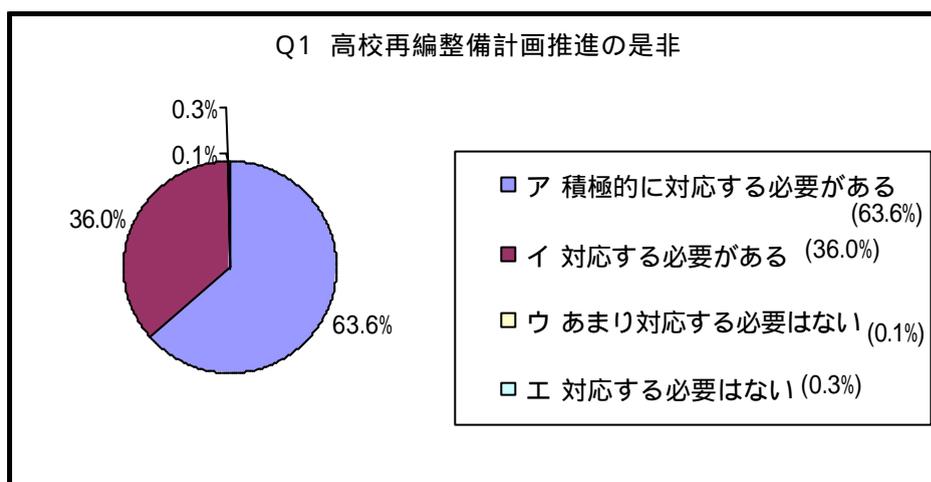
- ・ 少子化対策には、学校数、学級数を減少させるだけではなく、1学級当たりの定員を30人、35人にするなどの対応も必要である。
- ・ 養護学校高等部を整備するとともに、軽度の知的障害を持つ生徒については、普通高校で受け入れる体制をつくってほしい。
- ・ よりよい教育を実現するためには、教職員の人材育成にかける熱意ある指導が必要であり、教職員の意識改革や資質向上が必要である。
- ・ 中学生や保護者等に対し、高校教育の現状と課題、総合学科や単位制高校など新しい学校について情報提供を行い、理解を深めてほしい。

< 参考資料 >

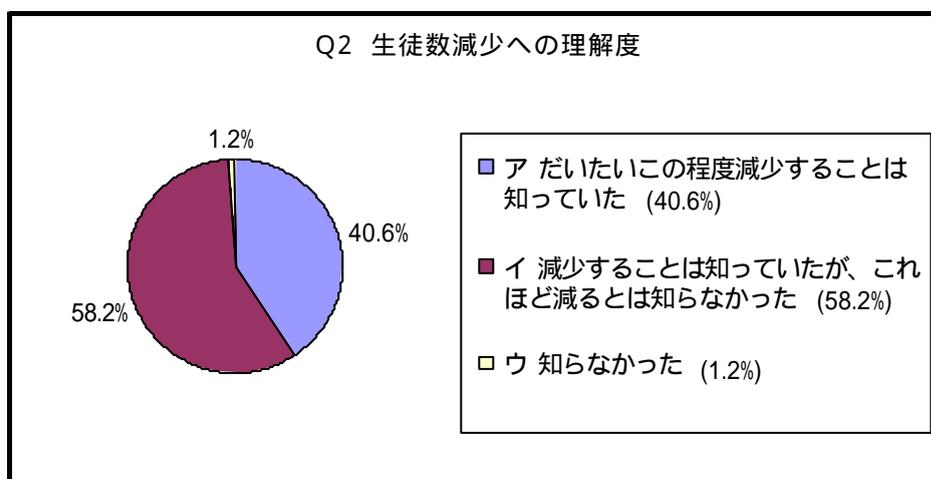
中長期高校再編整備計画骨子案に対する意見等の聴取結果

(1) アンケート調査結果

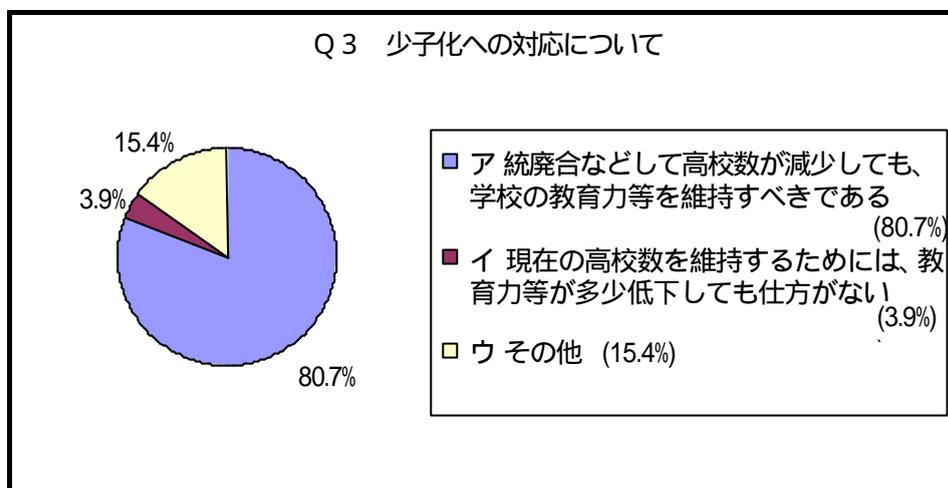
Q 1 社会や時代の変化に伴い、生徒の生き方、考え方が多様化していること、また、少子化傾向が継続的かつ長期的に続くことから、高校再編整備の推進などの対応の必要があるということについてどう考えますか。



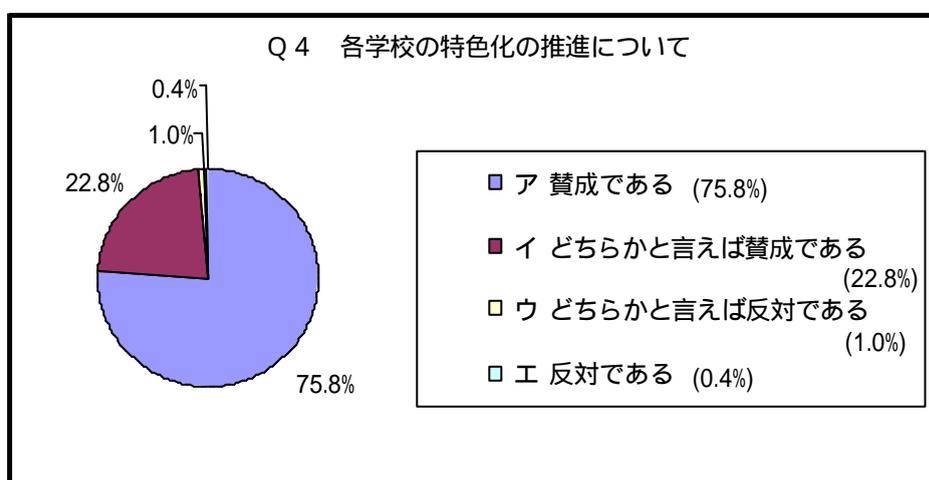
Q 2 中学校卒業生徒数が、平成 2 5 年度春には平成 1 3 年度春と比べて、およそ 6 , 3 0 0 人 (4 0 人学級に換算して、約 1 6 0 学級相当、1 学年 8 学級規模の学校が 2 0 校分) 減少することになりますが、このことについて知っていましたか。



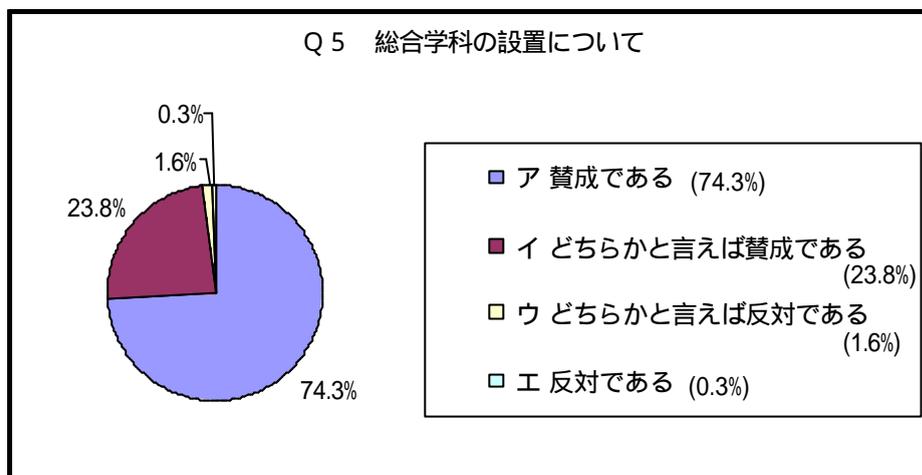
Q 3 今後、高校数を現状のままとすれば、現在の少子化傾向では、多くの学校が小規模校化して、部活動や多様な科目の開設が不可能になるなど、学校の活力や教育力の低下が予想されますが、このことについてどう考えますか。



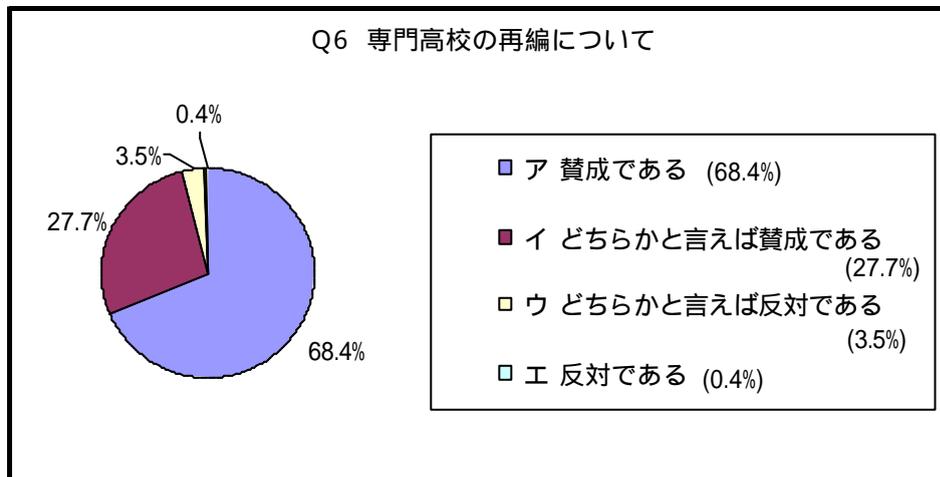
Q 4 普通科及びその他の専門学科を設置する高校については、生徒の実態やニーズに応じて、各学校の特色化を進めることとしていますが、どう考えますか。



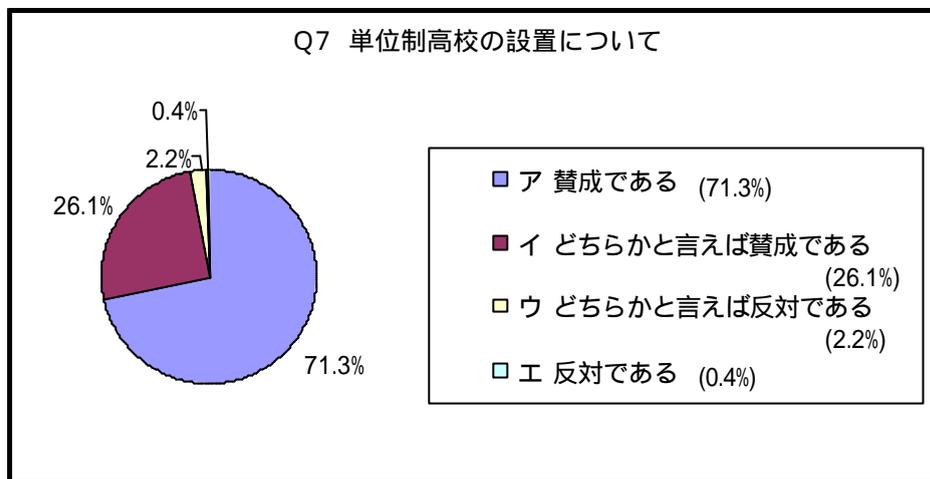
Q 5 総合学科については、生徒が通学できる範囲に1校は設置していくこととしていますが、どう考えますか。



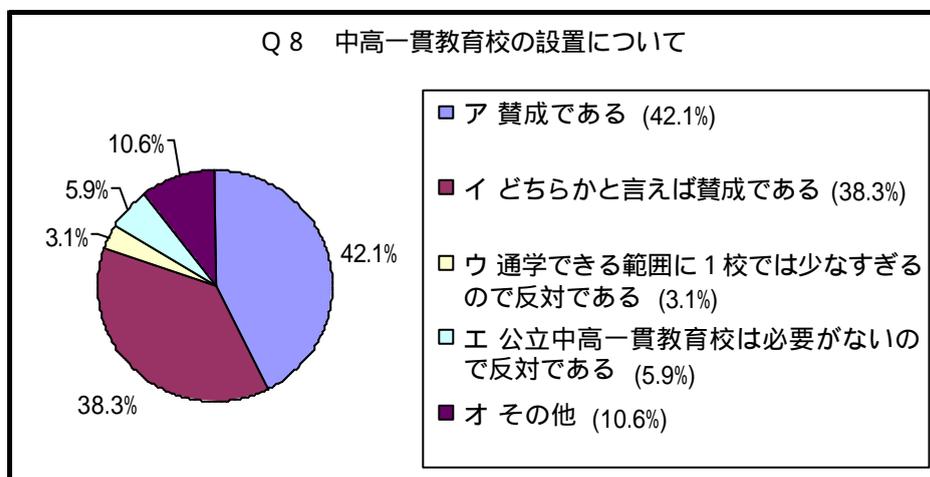
Q 6 農業、工業、商業などの専門高校では将来のスペシャリスト育成の観点から、教育内容のより一層の充実を図りながら、学校の統合や学科の再編成を進めることとしていますが、どう考えますか。



Q 7 単位制高校については、多様な学習歴の生徒のニーズに対応するため、履修形態の多様化と選択幅の拡大という観点から、設置を進めることとしていますが、どう考えますか。



Q 8 中高一貫教育校については、将来的には、中学生が通学できる範囲に1校は設置していくこととしていますが、どう考えますか。



10 現在の8通学区域

